

法政大學講義録

山脇, 貞夫 / 横田, 五郎 / 杉本, 貞治郎 / 吾孫子, 勝 /
岡, 八 / 松浦, 鎮次郎

(出版者 / Publisher)

法政大學

(巻 / Volume)

17

(号 / Number)

特別法

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

53

(発行年 / Year)

1904-08-03

（明治三十六年十月十二日第三種郵便物認可）
（毎月十四日、十五日、十八日、廿一日、廿五日、廿八日發行）

明治三十七年八月三日發行

特別法ノ十七

法政大學講義録

第九拾五號



法政大學發行



特別法第十七號目次

市制町村制	(自一九二〇)	法學士 松浦鎮次郎
競賣	法(自一五八至一六六)	法學士 吾孫子勝
非訟事件手續法	(自三三七至四四七)	法學士 橫田五郎
意匠	法(自一六九至一七九)	法學士 杉本貞治郎
公證人規則	(自七二至七三)	法學士 山脇貞夫
執達吏規則	(自七三至八四)	法學士 岡八

雜報
 ○商標權確證ノ請求○複製ノ意義○轉載ヲ禁スル旨ノ記載方法及ヒ
 其效力○第二十回卒業證書授與式

090
 1903
 5-17

ス故ニ從前ヨリ賦課セラル分ハ暫ク別シ將來ハ法律勅令ヲ以テスルニ非サレ
 ハ市町村ニ支出ノ負擔ヲ命シ得タルナリ
 市町村ニ於テ其固有事務委任事務及市町村ノ機關ニ委任セラレタル事務ヲ施
 行スルカ爲メ及法律命令ニ依テ賦課セラル支出ヲナスカ爲メニハ種種ノ費
 用ヲ要ス而シテ自治體ナルモノハ自己ノ費用ヲ以テ自己ノ事務ヲ處辨スルヲ
 本則トシ唯其實力ノ足ラサル場合ニ於テノミ國家又ハ上級自治體ノ補助ニ依
 賴スヘキモノナルカ故ニ市町村ハ第一ニ自己ノ財力ヲ備ヘタルヘカラス市町
 村ノ收入ノ第一ハ基本財産及其他ノ財産ヨリ生スル收入是ナリ市町村ハ其不
 動產積立金穀等ヲ以テ基本財産トナシ之ヲ維持スルノ義務アリ且寄附金等寄
 附者ニ於テ其使用ノ目的ヲ定ムルモノノ外臨時ニ收入シタル金穀ハ基本財産
 ニ加入スヘキモノトス是レ市制第八十一條町村制第八十一條ニ於テ規定スル
 所ナリ唯注意スヘキハ同條ニ於テ市町村ハ其不動產積立金穀等ヲ以テ基本財
 産トナレ之ヲ維持スルノ義務アルコトヲ規定セラルハ一般ニ市町村ニ對シテ基
 本財産ノ造成ヲ命スルニ過キスシテ總テノ不動產積立金穀等ヲ基本財産トナ

タルシトイフニ非ス故ニ或不動産ヲ基本財産トシテ否ヤトイフ事如キコト
ハ固ヨリ市町村ノ自由ニ存スルナリ所謂基本財産ハ之ヨリ生ズル收入ノミ
使用シ元本ニ容易ニ之ヲ消費セス以テ市町村ノ確實ナル財源ヲ得メントス
ルモノナルカ故ニ其處分ニ關シ普通ノ財産ニ於ケルヨリモ嚴重ナル制限アリ
即チ普通ノ財産ニ在リテ不動産ハ唯市町村會ノ議決ヲ以テ自由ニ之ヲ處分
スルコトヲ得不動産ハ其賣却讓與並買入書入ニ付テハ市ニ在リテハ府縣參事
會町村ニ在リテハ郡參事會ノ許可ヲ受クルヲ要スルニ反シ基本財産ニ在リテハ其
不動産タルト動産タルト問ハス其處分ハ總テ市ニ在リテハ府縣參事會町村ニ
在リテハ郡參事會ノ許可ヲ受クルヲ要ス而シテ此處ニ所謂處分ノ中ニハ純粹ナル
保管行為ノ外總テノ場合ヲ包含スルモノトス市町村ノ收入ノ第二ニ使用料
手数料並科料過怠金其他法律勅令ニ依リ市町村ニ屬スル收入ニ在リ市町村
營造物及公共ノ使用ニ供スル財産ノ使用ニ對シ使用料ヲ徵收スルコトヲ得又
特ニ數箇人ノ爲ニスル事業ニ付キ手数料ヲ徵收スルコトヲ得此處ニ所謂營造
物トハ市町村自身ノ營造物即チ水道公園病院博物館電燈瓦斯ノ類ヲ指スモノ

ニシテ國ノ營造物ニシテ然モ法ノ特別ノ規定ニ依リ市町村ニ於テ其設立維持
ノコトヲ負擔スルモノ即チ學校ヲ如キハ所謂營造物中ニ包含セザルコト勿論
ナリ唯學校等ニ在リテハ一方ニ於テ市町村カ其設立維持ノ費用ヲ負擔スル代ニ
一方ニ於テ其使用料即チ授業料等ハ之ヲ市町村ノ收入トスルヲ正當トスルカ
故ニ小學校令ノ如キハ明ニ市町村立ノ小學校授業料ハ市町村ノ收入トスルコ
トヲ規定セリ其他市町村立中學校高等女學校實業學校等ニ付テハ法ハ明ナル
規定ヲ設ケ居ラザレトモ法ノ精神ハ其授業料等ヲ市町村ノ收入トスルニ在リ
コト明ナリ即チ市町村ニ於テ學校等ノ使用料ヲ自己ノ收入トスルハ右ノ如キ
法ノ特別ノ規定ニ依ルモノニシテ市制町村制ニ所謂營造物ノ使用料トシテ之
ヲ收入スルニ非ザルナリ其他彼ノ道路ヲ如キモ悉ク此處ニ所謂營造物ノ中ニ
入ルヘキモノニ非ス道路ニハ或ハ府縣ト府縣トヲ結付タル大道路アリ或ハ
府縣内ノ要所ヲ連絡スル中道路アリ或ハ專ラ一市町村内ニ使用ニ供スル小道
路アリ費用ノ負擔者ノ如キモ區區トシテ一定セル事ナク甚元來費用負擔ノ
事實ノミヲ以テハ營造物ノ所屬ヲ定ムルコト能ハサルモラナルカ故ニ結局何

レカ國ノ營造物ニシテ何レカ府縣郡市町村ノ營造物タルキハ頗ル不明ニシテ規定ノ據ルヘキモノ亦一モ之レ無シト雖モ府縣ト府縣トヲ結付ケ若ハ府縣内ノ要所ヲ連絡スル道路ノ如キハ其目的ヨリ見ルモ專ラ一市町村内ノ使用ニ供スルモノニ非ス即チ一市町村ノ公益ノ爲ニスルモノトイフヲ得タルカ故ニ如斯キ道路ハ一市町村ニ於テ自己ノ營造物トシテ之ヲ設置スヘキモノニ非ス結局市町村ノ營造物タルコトヲ得ル道路ハ專ラ市町村内ノ使用ニ供スル小道路ノミニ限ラルルナリ故ニ市町村カ法ノ特別ノ規定ニ依リ國其他ノ團體ノ營造物タル道路ノ維持修繕ヲナス義務ヲ負擔スル場合ニ於テ其道路ノ使用料ヲ自己ノ收入トナシ得ルカ爲ニハ學校ニ付テ述ヘタルト同シタ法ノ特別ノ規定ヲ要ス而シテ現今此特別ノ規定トシテハ明治二十四年五月二十二日內務省訓令第四六二號アルノミ現ニ各市町村ハ此訓令ニ依リテ收入ヲナシツアリト雖モ元來如斯キ事項ハ一片ノ訓令ヲ以テ之ヲ定メ得ヘキモノニ非サルカ故ニ早晚改正ヲ要スヘキモノナリ次ニ注意スヘキハ所謂營造物ノ使用トハ如何ナル意味ヲ有スルヤトイフコト是ナリ營造物ハ前已ニ述ヘタルカ如ク人ト物トノ

集合ヨリ成リ若ハ單ニ物ノミヲ以テ成リ主トシテ命令權ノ作用ニ依ラス直接ニ公衆ニ對シ事實ノ利益ヲ與フルコトヲ目的トシ而シテ其目的ヲ達スルコトカ即チ行政作用ナルモノヲ謂フモノニシテ而シテ營造物ヲ組成スル物自身ハ民法上ノ財產權ノ目的物ナルカ故ニ營造物トシテノ作用ヲ妨ケサル範圍内ニ於テ其物ニ對シ民法上ノ使用ヲナサシムルコトヲ得レトモ是レ此處ニ所謂營造物ノ使用トハ異ナレリ營造物ノ使用トハ營造物ヲ營造物トシテ使用スルコトヲ謂フ營造物ニハ各自一定ノ目的アリ例ヘハ道路ハ交通其他ノ用ニ供ケラレ公園ハ衆庶ノ遊歩娛樂ノ爲ニ設ケラレ水道ハ各戸ニ水ヲ供給スルカ爲ニ設ケラルルカ如シ營造物ノ使用トハ營造物各自ノ目的通りニ之ヲ使用スルノ謂ニ外ナラス營造物ノ使用ト民法上ノ使用トヲ區別スルノ標準トシテ或ハ使用期間ノ長短ヲ以テシ使用期間長キモノハ民法上ノ使用其短キモノハ營造物ノ使用或ハ占有ノ繼續スルト否トヲ以テ他人ヲ排斥シテ長ク占有ヲ繼續スルモノハ民法上ノ使用占有ノ時時中斷スルモノハ營造物ノ使用モントスル者アレトモ何レモ正當ナラス使用期間ノ長短ノ如キ占有ノ時時中斷スルト否ト

如キハ唯偶然ノ事實ニ過キスシテ以テ其使用ノ性質ヲ定ムルニ足ラス要ハ唯其使用カ營造物ノ營造物タル所以ノ目的ニ適スルモノナリヤ否ヤニ依リテ決セラルルナリ如斯ク營造物ノ使用トハ營造物ノ目的通りニ使用ヲナスコトヲ謂フモノナリト雖モ各種ノ營造物ノ目的カ如何ナルモノナリキトイフコトニ至ラハ頗ル注意ヲ要スルモノアリ例ヘハ道路ハ普通ニ人ノ考フル所ニ依ルモ公衆通行ノ用ニ供セラルルモノタルハ明ナリト雖モ仔細ニ論スレハ決シテ通行ノ爲ノミニ非スシテ沿道ノ人家ヘノ出入ニ便スル爲メ溝渠ノアル場合ノ如キ石橋等ヲ其一端ニ架セシムルコトモ亦其目的ノ一タルナリ其他沿道ノ人家ニ於テ工事等ヲナスカ爲メ必要ナル場合ニ道路ノ一端ヲ使用セシムルカ如キモ亦然リ故ニ沿道ノ人家ニ於テ出入ノ用ニ供スル石橋ヲ道路ニ架シ又ハ工事ノ爲メ道路ノ一部ヲ一時材料置場トナスカ如キハ民法上ノ使用ニ非スシテ營造物ノ使用タルナリ又公園ニ付テ言ヘハ公衆ノ遊歩娛樂ニ供スルコトカ其主要ナル目的タルハ論ナシト雖モ公衆ノ娛樂ヲ助クル事業ノ爲メ之ヲ使用セシムルコトモ亦其目的ノ一タルナリ故ニ公園内ニ掛茶屋ヲ設クルカ如キハ民法

上ノ使用ニ非スシテ營造物ノ使用タルナリ而シテ單ニ住宅ノ敷地トスルノ目的ヲ以テ道路又ハ公園ノ一部ヲ使用スルカ如キコトアリトモ是ハ決シテ道路又ハ公園ノ目的ニ適セザル使用ニ非タルヲ以テ之ヲ民法上ノ使用ナリトイハナルヘカラス此等ノ關係ハ各種ノ營造物ニ付テ之ヲ判斷スルノ外ナシ市制町村制ニ所謂營造物ノ使用料トハ此處ニ述フルカ如ク市町村自身ノ營造物ヲ營造物トシテ使用セシムルコトニ對シ其報酬トシテ徵收スルモノナリ彼ノ營造物ヲ組成スル物ニ對シテ民法上ノ使用ヲナサシムル報酬トシテ收得スル賃料ノ如キハ單ニ財產ヲ生スル收入ニ過キタルモノトス市町村ハ又自己ノ取扱フ事項ニ關シ證明ヲ與ヘ又ハ書類ノ謄本ヲ下付スル等特ニ一箇人ノ爲ニスル事業ニ付キ手数料ヲ徵收スルコトヲ得其他市町村ニ於テハ市町村ノ人民ヨリ科料ヲ徵收シ市町村吏員ヨリ過怠金ヲ徵收スルコトアリ科料過怠金ノ如キハ元來收入ノ目的ヲ以テ之ヲ徵收スルモノニ非スシテ唯之ヲ徵收スル以上ハ幾分か市町村ノ財源トナリ得ルトイフニ過キタルニミ次ニ市町村ハ法律勅令ノ規定ニ依リテ收入ヲナスコトアリ前ニ述ヘタル市町村立學校ノ授業料ノ如キ

國ノ營造物タル道路ノ使用料其他ノ收益ノ如キ皆所謂法律勅令ニ依リ市町村ニ屬スル收入タルヘキモノナリ市町村ノ收入ノ第三ハ市町村税及夫役現品是ナリ市町村ニ於テハ第一第二ニ舉ケタル收入ヲ以テ其支出ニ充テ猶不足アル場合ニ於テ初メテ市町村税及夫役現品ヲ賦課徴收スルコトヲ得如斯ク市町村税ハ其旨趣ニ於テハ市町村收入ノ最後ノ方法タルニ拘ラス全ク市町村税ニ依ラスシテ市町村ノ經濟ヲ維持スルハ頗ル難事ナルカ故ニ實際ニ於テハ市町村税ハ市町村收入ノ最主要ナル部分ヲ占ムルモノナリ從テ之ニ關スル現行市制町村制ノ規定ヲ説明スル前ニ市町村税ナルモノノ主義原則ニ付キ近世研究ノ結果ヲ一言スルハ敢テ無用ノ業ニ非サルヘキヲ信ス一見スレハ市町村税モ其租税タル點ニ於テハ國税ト異ナル所ナキカ故ニ國税ノ主義原則ハ直チニ之ヲ市町村税ニ應用スルコトヲ得ヘク特ニ市町村税ノミニ關スル研究ヲ要セザルヤノ觀ナキニ非ス固ヨリ租税原則ニシテ兩者ニ共通スルモノ多アルヘキハ論ヲ待タサル所ナラト雖モ仔細ニ觀察スルトキハ市町村税ハ其地方税タル性質上ヨリ國税ト稍其趣ヲ異ニスル所アルヲ知ルコトヲ得ヘシ此等ノ關係ハ

近世諸學者ノ頗ル注意シテ研究シタル所ナリ吾人ハ特ニ其主要ナル二點ニ付テ此處ニ之ヲ論セシトス第一ハ附加税主義及獨立税主義ノコト是ナリ市町村税ニハ二種ノ別アリ一ハ附加税トイヒ一ハ獨立税トイフ附加税トハ國税若ハ他ノ公共團體ノ租税ニ對シテ一定ノ率ヲ乘シタルモノヲ徵收スルモノニシテ獨立税トハ市町村限ニ於テ税目ヲ起シテ徵收スルモノヲ謂フ多クハ國ニ於テハ附加税ト獨立税トヲ併セ用ユルト同時ニ附加税ヲ以テ本則トシ獨立税ヲ以テ例外トスルモノノ如シ如斯ク諸國ニ於テ附加税ヲ本則トスルハ決シテ故無キニ非ス蓋シ附加税ハ本税ニ對シテ一定ノ率ヲ乘シテ之ヲ徵收スルモノナルカ故ニ本税ノ額ニシテ明ナル以上ハ附加税ノ額モ直チニ之ヲ知ルコトヲ得ヘク獨立税ノ場合ニ於ケルカ如ク課税物件ニ就テ別段ノ調査ヲナサズ煩ナシ是レ市町村自身ニ取リテ利益ナリ加之附加税ハ國家又ハ公共團體ノ現ニ課税シテ付テタル所ノ物件ニ對シテ本税ト一定ノ比例ヲ以テ課税スルモノナルカ故ニ國家ハ容易ニ其税ノ狀況ヲ知ルコトヲ得ヘク獨立税ノ場合ニ於ケルカ如ク市町村ノ課税ノ果シタ人民ノ負擔力ニ應ジテ課税スルモノ否キ又其徵收ノ方法

カ果シテ其當ヲ得タルモ否ヤ等ニ付テ常ニ注意ヲ怠ルハカラズ要ナク是
レ國家カ市町村ノ財政ヲ監督スル上ニ取リテ利益アリ附加税ハ市町村地方
面ヨリ立ニ國家監督權ニ方面ニ觀察シテ獨立税ニ比シ前述ノ如キ利益ヲ有
スルカ故ニ市町村カ猶幼稚ニシテ國家ノ監督保護ニ待タサルヘシトナルモ
多キ時代ニアリテ附加税主義ヲ以テ本則トスルハ頗ル其當ヲ得タルモノト
イハサルヘカラス然レトモ市町村ヲシテ時勢ノ進歩ニ應ジテ十分ニ其事業ヲ
伸張セシメ地方公共ノ利益ヲ増進セシメントスルニハ亦之ニ相應スル財源ヲ
付與セサルヘカラス而シテ附加税ノミニ依リテ此目的ヲ達スルコト能ハサル
ハ更ニ吾人ノ嘆嗟ヲ待タサル所ニシテ彼ノ巴里市ニ於テ四種ノ國税ニ對スル
附加税カ全ク其經費ヲ支フルノ力ナク遂ニ入市税(オクワリア)ヲ起スノ已ムヲ
得タルニ至リ又千八百九十三年以前ニ於ケル普魯西ノ市町村ニ於テ所得税ノ
附加税カ驚クヘキ高率ニ達シ人民ヲ殆ト其負擔ニ堪ヘナラシメタルカ如
キナ例證トナスヘキナリ且夫レ附加税制度殊ニ國税ニ附加スル制度ニ在リ
テハ國税ト市町村税トカ同一ノ課税物件ノ上ニ賦課セラレルカ故ニ國家カ非

常事變ニ際シ本税ノ額ヲ増加スルニ當リテハ附加税タル市町村税ハ人民ノ負
担ヲ過重ニセザランカ爲ニ勢緊縮ヲ行ヒテ以テ市町村行政ヲ擾亂スルノ已ム
ヲ得サルニ至ルコト往往ニシタアリ是レ亦附加税ニ伴フ缺點ナリトイハサル
ヘカラス如斯ク市町村税ハ到底附加税ノミヲ以テ満足スヘキニ非ス國家ハ早
晩市町村ニ與フルニ十分ノ財源ヲ以テシ其本則トシテ獨立税ヲ徵收スルコト
ヲ許ササルヘカラサルモノトセハ其如何ナル税源ヲ以テ市町村ニ付與スヘキ
モノトナスヤ是レ次ヲ起ルヘキ問題ナリ而シテ此問題ヲ最善ヲ研究シ最早タ
解決シテ著著其實效ヲ奏シタルモノヲ普魯西トナス千八百九十三年ニ於ケル
普魯西市町村税法ノ改正ハ實ニ同國地方制度ニ關スル近時ノ大改革ト稱スヘ
キモノニシタ之ニ依リテ地租、家屋税、營業税及礦業税ノ四種ハ國税ヨリ離レテ
市町村ノ財源ヲナスニ至レタ今其始末ノ大要ヲ舉ゲルハ同國ニ於テハ市町村
ニ適當ノ財源ヲ與フル上ヨリ立ニ租税ノ性質上ヨリ地租及家屋税ハ國税ニ對
市町村税ニ移スル至當ナルコトニ於テ年々唱進セラレタル所ニシテ家屋税ハ我國
ニ於テハ府縣稅タヒトモ普魯西ニ於テハ改正前ノ國税トシタ之ヲ賦課セリ千

八百九十一年七月二十四日發布改正所得稅法之準備トシテ現行タルモノナリ即チ同法ハ一方ニ於テ納稅者ノ範圍ヲ擴張シ且多額ノ所得稅ヲ其負擔力ニ應ジテ稅率ヲ高ムルノ趣旨ヲ出タル同時ニ一方ニ於テハ如斯ニシテ増加スヘキ收入ヲ以テ地租及家屋稅ヲ市町村稅ニ移スル爲メ生ズル國庫ノ收入減少ヲ補充スルノ目的ヲ有シタルナリ故ニ同條第八十二條ニ於テハ所得稅ヨリ生ズル收入ニシテ千八百九十二年ヨリ九十三年ニ至ル年度ニ於テ八千萬マルクニ達シ翌年度ニ於テ其百分ノ四ヲ増スコトヲ得ハ其餘分ヲ以テ前述ノ目的ニ供スヘキコトヲ規定セリ然ルニ改正所得稅法施行後ノ初年即チ千八百九十二年ヨリ九十三年ニ至ル年度ニ於テ所得稅ノ收入ハ一億二千四百八十四萬二千八百四十八マルクニ達シ之ヲ前年度ノ收入七千九百五十五萬八千八百二十七マルク並ニ所得稅法第八十二條ノ所期八千萬マルクニ比シテ著シキ増加ヲ來シタルカ故ニ改革ノ機ハ已ニ熟セントスルモノトモ如クナリ是カ市町村稅改正國稅地租家屋稅廢止ノ聲ハ朝野ヲ通シテ一種ノ警語トナリ此大勢ハ遂ニ政府ヲ驅テ千八百九十二年十二月直接國稅廢止法補充稅法及地

方團體公課法ノ三法案ヲ議會ニ提出セシムルニ至リ兩院ニ於テハ僅少ナル修正ヲ加ヘテ直ニ之ヲ可決確定シ翌年七月國王ノ裁可ヲ經テ茲ニ法律ノ公布ヲ見ルニ至レリ而シテ千八百九十二年ヨリ九十三年ニ至ル年度ニ於テ國庫カ地租其他三種ノ稅目ヨリ得ヘカリシ收入ハ其ノ其土庫ニ租 三千九百九十萬七千マルク 家屋稅 三千五百〇八萬六千マルク 營業稅 千九百八十一萬一千マルク 總計 一億〇百七十三萬マルクニシテ右ノ額ハ四種ノ國稅ヲ市町村稅ニ移スル爲メ國庫ニ生ズヘキ缺損ナルカ故ニ之カ填補ノ策ヲ講セサルヘカラス之ニ關スル政府ノ計畫ハ四千萬マルクハ所得稅ノ收入増加ヲ以テ之ニ充テ二千四百萬マルクハ市町村對シテ補助ヲ廢シテ節約シ得ル所ノモノヲ以テ之ニ充テ二百九十四萬マルクハ從來國稅徵收ノ爲メ市町村ニ付與シタルモノニシテ國稅廢止ノ爲メ不用ニ歸スルモノ

分ヲ以テ之ニ充テ殘額三千五百萬マルクハ所得稅ヲ補充スル財產稅所謂補充稅ヲ起シテ之ニ充テントスルニアリキ獨法案趣意書ハ政府カ特ニ地租家屋稅、營業稅及營業稅ノ四種ヲ取リ之ヲ國稅ヨリ市町村稅ニ移シタル所以ヲ説明シテ曰ク

(一)國稅ニ在テハ人民ヲシテ其負擔力ニ應シテ公共ノ費用ヲ分擔セシムルハ主義ニ依ラサルヘカラス然ルニ人民ノ負擔力ナルモノハ各人身上ノ關係ニ依ルモノニシテ種種ノ事情ノ爲ニ其狀態ヲ異ニスルモノナリ然ルニ地租家屋稅ノ如キ物稅シアルストイレルハ唯其課稅物件タル物ノミニ著眼シ納稅者ノ身上ノ狀態ニ著眼スル能ハサルカ故ニ眞箇ニ其人ノ負擔力ニ應シタル課稅ヲナス能ハス例ヘハ同一ノ面積ノ土地ヲ有スル者ニテモ甲ハ其土地ヨリ生スル收入ヲ全部自己ノ所得トスルヲ得ルニ反シ乙ハ其土地ヲ借金ノ抵當ニ充テ居リテ收入ノ大部分ハ借金ノ利子トシテ債主ニ支拂ハルモノナリトセハ兩者ノ負擔力ハ大ニ異ナルモ所有地ノ面積同シキカ故ニ地租トシテハ同一ノ額ヲ納メサルヘカラサルカ如シ如斯ク物稅ハ其性質上負擔力ニ

應スルノ課稅ヲナシ難キモノニシテ國稅トシテハ適當ナラサルモノナリ然レニ市町村ニ於テハ負擔力ニ應スルノ主義ニ依ラス報價ノ主義ニ依リテ課稅ヲナスコトアルカ故ニ右ノ物稅ハ之ヲ市町村稅ニ移シ市町村ヲシテ報價ノ主義ニ依リテ之ヲ徵收セシムルヲ良シトス斯如ニシテ國稅トシテハ所得稅ノ如キ所謂人稅ニ依ルナルストイレルノミヲ殘シ眞ニ負擔力ニ應スルノ課稅ヲナサシムヘキモノトス

(二)地租家屋稅ノ目的トスル土地家屋ヨリ生スル收入ハ種種ノ關係ヨリ時時變動スヘキモノニシテ其物體ノ價格モ之ニ從テ上下ス然ルニ之ニ對シテ國稅ヲ賦課セントスルトキハ或ル土地家屋ヨリ生スル收入ノ見積ノ如キモ一タヒ定メタルモノハ容易ニ之ヲ變更スル能ハス全國各地ニ亘リ實際ノ變動ニ應シテ賦課ノ當ヲ得シムルカ如キハ到底望ムヘカラサル所ナリ從テ極メテ彈力性ニ乏シク實際ト併行セサルノ稅タルニ至ルヲ免レス之ニ反レテ市町村等ノ小區域ニアリテハ實際ノ變動ヲ知ルコト比較的容易ニシテ之ニ適應シ課稅ヲ伸縮スルコトモ亦ナシ難キニ非ス前述ノ關係ハ時ト處トニ依リ

種種事情ヲ異ニスル營業、鐵業ニ付テモ亦存在スルヲ見ルハ、(三)市町村ニ於ケル土地、家屋、營業、鐵業等ハ市町村團體ヲナセル種種ノ經營設備ニ依リテ其價格ヲ増加スルモノナリ然レニ之ニ對スル課税ハ、園庫ノ收入ニ歸スルモノトモハ市町村ハ一方ニ於テ自己ノ費用ヲ以テ其地方ヲ繁榮ヲ圖ルニ拘ラス其結果トシテ生スル土地、家屋等ノ價格ヲ増加ニ對シテハ財源ヲ求ムル能ハサルノ不權衡ヲ來スニ至ルハ、改正ハ獨立市町村税ニ關スル最近ノ學說ヲ代表セルモノト見ルト得ヘク吾人ノ參考ニ値スルモノトス次ニ市町村税ニ付テ注意スルキ點ノ第二ハ課税ニ關スル負擔力主義ト報償主義トノ區別是ナリ租税ハ言フ迄モ公共ノ費用ヲ支拂スルカ爲ニ人民ヨリ強制徴收スル所ノモノナリ而シテ租税ノ理論ニ關シテハ從來種種ノ說アリ或ハ租税ハ國家カ種種ノ事業ニ依リテ人民ニ利益ヲ與フルカ故ニ其報酬トシテ支拂フモノナリトイフ交換說アリ或ハ「朝事アルノ日ニ當リ國家ハ人民ノ生命財產ヲ保護スヘキモノナルカ故ニ租税ハ人民カ國家ニ對シテ保險ノ掛金ヲナスモノナ

リトイフ保險說アリシモ此等ノ說ハ皆勢力ヲ失ヒ今日最新ノ說トシテ行ハルルハ犧牲說即チ負擔力說ナリ此說ニ依ルハ租税ハ利益ニ對スル報酬ニモ非ス保險ノ掛金ニモ非ス各人カ其負擔力ニ應ジテ國家公共ノ費用ヲ分擔スルモノナリトイフニ在リ蓋シ國家ノ事業ハ多ク場合ニ於テ社會全般ノ利益ノ爲ニスルモノニシテ人民各自ニ對シテハ果シテ幾何ノ利益ヲ與ヘタルヤヲ知ルコト能ハサルカ故ニ其經費ヲ人民ヨリ徴收スルノ根據ニ關シテハ交換說等ヲ以テ之ヲ説明スル能ハス是レ負擔力說ノ今日行ハルルニ至リシ所以ナリ然レトモ一般公共ノ利益ノ爲ニスル國家の事業ハ往往同時ニ一部分ノ人民ニ對シ明ニ特殊ノ利益ヲ與フルコトアリ此場合ニ在テハ其利益ニ對シテ相當ノ課税ヲナスハ却テ其當ヲ得タルモノニシテ學者モ亦之ヲ認ムル所ナリ例ヘハ「ラダキル」租税ニ於ケル交換主義ハ決シテ全ク捨テラレタルニ非ス唯其適用カ相當ノ範圍内ニ縮メラレタルノミトイヘルカ如キ是ナリ而シテ此點ニ關シテハ國稅ト市町村稅トノ間ニ頗ル異ナル所アルヲ知ラサルヘカラス市町村團體ヨリ公共事業ヲ施行スルコトヲ目的トスル團體ナリ故ニ公共ノ爲ニ必要ナル經費

少人民の徴收スル根拠は國稅の場合に於ては、土地所有權の所ナシ然レト雖、國家ノ事業に被テ外交ヲ如キ司法ヲ如キ陸海軍ヲ如キ監獄ヲ如キ警察ヲ如キ社界全般ノ利益ヲ爲スルモノ多ク從テ各人ニ對シテ幾何ノ利益ヲ與フルヤヲ知ルハ不能ナル處多キニ反シテ市町村ノ事業ハ住民全體ノ利益ヲ爲スルト同時ニ土地、家屋ヲ所有者ノ如キ營業者、如キ或種ノ階級或一部ノ住民ニ對シテ認識シ得ヘキ特殊ノ利益ヲ與フル場合頗ル多シト從テ國稅ノ大部分ハ全ク犧牲主義ニ基テ反シテ市町村稅ニ在テは寧ろ利益主義報償主義ニ基テモ多キハ自然ノ數ナリトイハサルヘカラスワダチハ嘗テ市町村ノ經費ト其財源トノ關係ニ付キ論シタリタリ、是れ國稅ノ交際關係ヲ以テ、(一)市町村全體ノ利益ニ關スル經費例ハ警察費、如キ救貧費、如キモハ固ヨリ住民全體ヲシテ其負擔力ニ應シテ之ヲ分擔セシメタルヘカラス、(二)住民ノ精神上、經濟上ノ利益ヲ伸暢スルヲ目的トスル經費例ハ教育費ノ如キモ亦(一)ト同ニ方法ニ依リ住民ノ負擔力ニ應シテ(一)及(二)ノ爲ニハ所得稅、消費稅其他ノ財產稅ヲ賦課スヘシ之ヲ爲ニ土地ニ課稅スルハ如キハ極メテ

例外ノ場合ナシ且決定ノ限度内ニ止ムヘシ、(三)其他ノ經濟上ノ利益ヲ目的トスル經費ニシテ不動産ノ所有者及營業者ニ對シ直接間接ニ特殊ノ利益ヲ與フルモノニ付テハ其所有者及營業者ニ對シ收入稅及不動産ニ對スル稅ヲ賦課スヘシ此經費ノ爲ニ所得稅ヲ賦課スルハ極メテ例外ノ場合ナシ且一定ノ限度内ニ止ムヘシ、(四)本條ノ規定ハ前ニ述ヘタル千八百九十三年ニ於ケル普魯西市町村稅法ノ改正モ亦、ワグネルノ說ク所ト同趣旨ニ出ラタルモノナリ法案趣意書ハ此事ヲ論シテ曰ク「市町村ニ於テハ各人ノ負擔力如何ハ必スシモ唯一ノ課稅標準ニ非ズ猶之ニ加フルニ報償ノ原則ヲ以テセサルヘカラス故ニ本案ニ於テハ市町村ヲシテ土地、家屋ノ所有者及營業者ニ對シテ特殊ノ利益ヲ與フル事業ヲ爲スハ報償主義ニ依リ物稅、地租、家屋稅、營業稅及礦業稅ヲ謂フ」賦課セシメ住民全體ノ利益ヲ爲ニスル事業ヲ爲スハ犧牲主義ニ依リ各人ヲシテ其負擔力ニ應シテ所得稅(國稅)所得稅ノ附加稅若ハ獨立稅タル所得稅ヲ謂フヲ納メシムルコトナセリ、市町村制 自治體としての市町村 市町村の行政 一〇九

ト如斯キ精神ヲ以テ生レタル改正市町村税法ハ其第二十條ニ於テハ市町村内ノ一區域ニ對シ若ハ一部分ノ住民ニ對シテ特殊ノ利益ヲ與フル營造物ニ關スル費用ヲ支辨スルカ爲ニハ右ノ區域又ハ住民ニ對シテ不均一ノ課率ニ依リ課税スルヲ得ルコトヲ規定シ第五十四條乃至第五十九條ニ於テハ所得税ヲ以テ支辨スヘキ經費ト物税ヲ以テ支辨スヘキ經費トノ關係ヲ定メ報償主義ヲ著シク法文ノ上ニ現ハセリ

以上ハ市町村税ニ關スル近世研究ノ大要ヲ述ヘタルモノナリコレヨリ進テ我現行制度ニ付テ述フル所アラン市制町村制ニ依レハ市町村税トシテ賦課スルコトヲ得ヘキモノハ國稅府縣稅ノ附加税及直接又ハ間接ノ特別税トス附加税トハ本稅タル國稅又ハ府縣稅ト同一ノ課税物件ニ對シテ本稅ノ賦課額ニ對スル一定ノ割合ヲ賦課スルモノヲ謂フ附加税ハ直接ノ國稅又ハ府縣稅ニ附加シ均一ノ稅率ヲ以テ市町村ノ全部ニ賦課スルヲ常例トシ其間接國稅ニ附加シ若ハ市町村ノ各部ニ對シ不均一ノ稅率ヲ以テ賦課スル場合ハ特ニ監督廳ノ認可ヲ受ケタルヘカラス特別税トハ市町村ニ於テ特ニ稅目ヲ起シテ賦課スルモノ

判所ニ競賣ノ申立ヲ爲スヘキモノナルニ因ル而テテ前示ノ書面ハ如何ナル書面ナラサルヘカラサルヤニ付テハ別段ノ規定ナキカ故ニ公ノ證書タルト私署證書タルトヲ問ハス苟モ前示ノ送達ヲ受ケタル員ヲ證スルニ足ルモノアレハ可ナリト信ス

市制町村制 市制 市制

増價競賣ノ申立ニハ右ノ外民事訴訟法第六百四十三條第一項第三號乃至第五號ノ書面ヲ添附スヘキ之ニ付キ同條第二項及ヒ第三項ノ規定ニ依ルヘキコト本法ノ定ムル所ナリ第四一條第三項

申立書

民法第三百八十三條所謂登記ヲ爲シタル債權者ハ數人アル場合ニ於テ是等ノ者カ同法第三百八十四條ノ規定ニ依リ適法ノ期間内ニ第三取得者ニ増價競賣ノ請求ヲ爲シタル場合ト雖モ既ニ其數人ノ債權者中ノ一人カ増價競賣ノ申立ヲ爲シタルトキハ他ノ債權者ハ同一不動産ニ付キ更ニ増價競賣ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス是等ノ債權者ハ最利ノ増價競賣ノ請求カ擔保ヲ認許セサル裁判ニ因リ當然其效力ヲ失ヒタル後第四十三條第二項ノ規定ニ從ヒ増價競賣ノ申立ヲ爲スコトヲ轉ヘテ後述ノ如ク蓋然程度増價競賣ノ手續ヲ開始シ申立人以外

第二節 擔保ノ許否

債權者カ増價競賣ヲ請求スルニハ代價及ヒ費用ニ付キ擔保ヲ供スルコトヲ要スルハ民法第三八四條第三項ノ定ムル所ニ係リ競賣ノ申立ニ際シ擔保ノ認許ヲ裁判所ニ求ムルヲ要スルコトハ前陳ヘタルカ如シ第四〇條第一項此場合ニ於テハ裁判所ハ擔保ノ許否ニ付キ期日ヲ定メ其期日ニハ請求債權者及ヒ第三取得者ヲ呼出シ決定ヲ以テ其裁判ヲ爲スヘク此裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ許サス(第四二條 書式第十三號參照)

擔保ハ如何ナル種類ノモノナルヲ要スルカニ付キテハ法律ニ制限ナキカ故ニ現金若クハ有價證券等裁判所ノ相當ト認ムル擔保ヲ供セシムルコトヲ得ヘシ而シテ擔保ヲ供スルハ増價競賣ヲ爲スカ爲メナルカ故ニ擔保ノ許否ヲ決スルニ方リテハ單ニ擔保トシテ供セラレタルモノカ果シテ擔保タルニ十分ナルヤ否ヲ審査スルニ止マラス其他裁判所カ競賣ノ申立ニ付キ管轄ヲ有スルヤ又タ

申立人カ果シテ民法上増價競賣ヲ申立テ得ヘキモノナルヤ否等ノ事實ヲモ審査スヘキモノト信ス(第四四條第一項)

競賣ノ請求ハ擔保ヲ認許セナル裁判ニ因リテ當然其效力ヲ失フモノニシテ民法第三百八十四條ニ定メタル期間内ニ第三取得者ニ對シテ競賣ノ請求書ヲ送達シタル他ノ債權者ハ右陳ヘタル不許ノ裁判アリタル日ヨリ三日内ニ更ニ競賣法第四十條ニ依リ競賣ノ申立ヲ爲シ得ヘキモノトス(第四三條)

尙ホ右ノ擔保ハ競落代價ノ完済アルニ至レハ其必要ナキカ故ニ之ニ因リテ其效力ヲ失フヘキモノトセラル(第四八條)

◎ 書式第十三號 擔保不許ノ決定

決定

府市區町番地士族職業
縣郡村平民職業
申立人 何 某

右申立人ハ何何不動産ノ増價競賣申立ノ爲メ何何ヲ以テ擔保トスルヲ認許

セラレシコトノ申立ヲ爲シタルモ(何何ノ事由)ニヨリ其申立ヲ認許セス
明治 年 月 日

何 區 裁 判 所
判 事 何 某

第三節 競賣手續開始決定

裁判所カ擔保ヲ認許シタルトキハ競賣手續ノ開始決定ヲ爲スヘク此決定ニハ
認許シタル擔保ヲ表示シ且第四十一條第一項第一號乃至第三號第六號及ヒ第
七號ニ掲ケタル事項ヲ記載スヘキモノニシテ尙ホ第二十五條第二項、第三項ノ
規定ニ從フヘキモノトス(第四四條 書式第十四號參照)
又タ裁判所ハ開始決定ヲ爲スト同時ニ增價競賣ノ申立アリタルコトヲ競賣ニ
付スヘキ不動産ニ關スル登記簿ニ登記スヘキ旨ヲ職權ヲ以テ其管轄裁判所ニ
囑託スヘキモノトス(第四四條第三項、第二六條第一項)
此開始決定ノ效力之ニ對スル不服ノ申立其效力ノ消滅等ニ付キヲハ前ニ不働

產ノ競賣ニ付キ陳ヘタル所ヲ參照シテ知ラルヘシ(第三章第二節參照)

◎書式第十四號

競賣手續開始決定

競賣手續開始決定

住所 身分 職業

申立人

何 某

同

債務者

何 某

同

讓渡人

何 某

同

第三取得者

何 某

(何何不動產ヲ表示ス)

此擔保金何圓也

競賣法

增價競賣 競賣手續開始決定

右申立人ノ抵當不動産ニ對シ第三取得者ヨリ撤除ノ爲メ金何圓也ノ提供ヲ爲シタルニ申立人ハ金何圓ノ増價競賣ノ爲メ前記ノ擔保ヲ提供シタルニヨリ之ヲ認許シ該不動産ノ競賣手續ヲ開始ス

明治 年 月 日

何 區 裁 判 所
判 事 何 某

第四節 利害關係人及競賣準備手續

第一 利害關係人

一般不動産ノ競賣ニ於テ該不動産ニ付キ權利ヲ有シ義務ヲ負擔スル者ヲ以テ利害關係人ト認メ競賣ニ方リ之ヲシテ其利益ヲ保護セシムルノ機會ヲ得シムルノ規定ヲ設ケタルト同シタ(本講義錄第三章第三節參照)増價競賣ノ手續ニ於テハ左ニ記載シタル者ヲ以テ利害關係人ト認ム(第四五條)

第一 競賣請求者
第二 債務者
第三 第三取得者及譲渡人
第四 登記簿ニ登記シタル不動産上ノ權利者
第五 不動産上ノ權利者トシテ其權利ヲ證明シタル者即チ留置權者登記簿ニ登記ヲ要セタル先取特權者國稅ニ付キ國庫ノ如キモノ
右陳ヘタル利害關係人ニハ競賣期日ヲ通知スヘク(第四五條第一項)第二七條第二項其他尙ホ競賣手續上是等ノ者ノ意見ヲ聽キ之ニ其意見ヲ陳述セシムヘキ場合アリトスヘク(競賣ノ期日ヘシテ競賣手續ノ詳見國籍人ニ賦與スルモノ)
第四十六條第二項ハ前ニ第三章ニ陳ヘタル一般不動産ノ競賣ニ準用セラルル民事訴訟法ノ規定ヲ増價競賣ノ場合ニモ準用シタルヲミナラズ第四六條第二項競賣法總則ノ規定カ増價競賣ノ場合ニ適用アルコト勿論ナルカ故ニ前陳利害關係人カ如何ナル場合如何ナル範圍ニ於テ増價競賣ノ手續ニ干與スルコトヲ得ヘキヤノ問題ハ前ニ一般ノ不動産競賣ニ付キ陳ヘタル所ニ依リ之ヲ決シ

得ヘシ故ニ茲ニ之ヲ再說セシ本講義第三章第三節參照
第二節競賣準備手續
裁判所ハ競賣手續開始決定ヲ爲スト同時に職權ヲ以テ増價競賣ノ申立アリタルコトヲ競賣ニ付スヘキ不動産ニ關スル登記簿ニ登記スヘキ旨ヲ其管轄登記所ニ囑託スヘク(第四四條第三項第二六條第一項)然レ後競賣並ニ競落期日ヲ定メ之ヲ公告スヘク競賣ノ期日ハ之ヲ競賣手續ノ利害關係人ニ通知スルコトヲ要スコト一般不動産ノ競賣手續ニ於ケルト同シ(第四五條第一項第二七條第一項第二項)
茲ニ注意スヘキハ増價競賣ノ手續ニ於テハ一般不動産ノ競賣ニ於ケルカ如ク鑑定人ヲシテ不動産ヲ評價セシメ以テ最低競賣價額ヲ定ムルノ手續ヲ要セサルコト之ナリ何トナレハ増價競賣手續ニ於テハ競賣請求者ノ定メタル増價金額カ即チ最低競賣價額ニ當リ若シ此金額ニ達スル競買ノ申込ナキトキハ右請求債權者ヲ以テ競落人ト爲スヘキモノナレハナリ(第四七條第一項)
競賣ノ公告ニハ増價競賣ノ申立ニ因リテ競賣ヲ爲ス旨及ヒ競賣請求者ノ定メ

タル増價金額ノ外民事訴訟法第六百五十八條第一號乃至第二號第五號第七號第九號及ヒ第十號ニ據ケルハ事項ハ記載スベク(第四六條第一項)書式第十五號參照
何ホ競賣期日及ヒ競落期日並ニ場所ニ關スル民事訴訟法ノ規定及ヒ競賣期日公告方法ニ關スル同法ノ規定ノ準用セラルヘキコト次節ニ說クカ如シ(第四六條第二項)

○書式第十五號

競賣期日公告ノ手續

不動産増價競賣公告

一(何何不動産ヲ表示ス)

租税何程又ハ公課何程

貸賃借ハ何何賃借日ニ競賣ノ出願ニ出願スヘキ

競賣請求者ノ定メタル増價金額何程也

右不動産ヲ増價競賣ノ申立ニ因リ競賣ニ付ス競賣期日ハ明治何年月日午前午後何時ナリ

競賣法 増價競賣 利害關係人及び競賣準備手續
競賣公告 競賣公告ノ書式
一六一

競賣ハ東京市何區町番地執達吏何某ヲシテ當區裁判所構内ニ於テ之ヲ取扱
ハシム

競落期日ハ明治何年月日午前午後何時當區裁判所ニ於テ之ヲ開ク
登記簿ニ記入ヲ要セタル不動産上權利ヲ有スル者其債權ヲ申出ツヘシ
利害關係人ハ競賣期日ニ競賣ノ場所ニ出頭スヘシ

明治 年 月 日

何區裁判所

第五節 競賣並ニ競落ノ手續

增價競賣ニ於ケル競賣並ニ競落ノ手續ハ前ニ第三章ニ一般不動産競賣ニ付キ
陳ヘタルト殆ト同一ノ手續ニテ行ハレ左ニ掲ケル民事訴訟法ノ規定ハ增價競
賣ニ準用セラル其詳細ハ既ニ第三章ニ之ヲ陳ヘタルヲ以テ茲ニハ説明ヲ省キ
テ單ニ法條ヲ列舉スルニ止メ差異ノ存スル所ニ付キ説明ヲ加フヘシ

一 競賣期日ノ日及ヒ場所ニ關スル第六五九條

二 競落期日ノ日及ヒ場所ニ關スル第六六〇條

三 競賣期日公告方法ニ關スル第六六一條

四 賣却條件ノ變更ニ關スル第六六二條——如何ナル賣却條件カ變更セラレ
得ヘキモノナルヤニ付キラハ第三章第三節ヲ參照スヘシ

五 特別賣却條件アルトキハ之ヲ告知シ競買價額ノ申出ヲ催告スルコト第
六六三條

六 競買人ヲシテ擔保ヲ供セシムルコトニ關スル第六六四條

七 第六百六十五條第二項ニ從ヒ競賣ハ競買價額ヲ申出ツヘキ催告後滿一
時間ヲ過クル後ニ之ヲ終局スヘキコト

八 最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタル後競賣ノ終局ヲ告知スヘ
ク他ノ競買人ヨリ供シタル擔保ハ之ヲ返還スヘキコトニ關スル第六六六
條——競買ノ申込ハ他ニ高價競買ノ申込アルトキハ當然其效力ヲ失フモノ
ニシテ競賣法第一條此點ニ付キラハ民事訴訟法ニ從ハサルモノトス

競賣法

附則 競賣並ニ競落ノ手續

九 競賣調書ノ作成ニ關スル第六六七條

一〇 競賣調書並ニ預リタル擔保ヲ執達吏ヨリ管轄裁判所書記ニ引渡スヘキコトニ關スル第六六八條

一一 假住所選定届出ニ關スル第六六九條

一二 競賣期日ニ於テ許スヘキ競買價額ノ申出ナキトキハ裁判所ハ其意見ヲ以テ最低競買價額ヲ相當ニ低減シテ新競賣期日ヲ定ムヘシトノ第六百七十條ノ規定ハ増價競賣ノ手續ニハ準用無ク隨テ増價競賣ノ手續ニ於テハ新競賣ヲフモノヲ見ルコトナシ之蓋シ増價競賣ノ手續ニ在テハ競賣ノ期日ニ於テ先ニ増價競賣請求債權者力定メタル増價金額ニ達スル競賣ノ申込ナキトキハ右請求債權者ヲ以テ競落人トスルカ故ニ新競賣ヲ爲スノ必要ナキヲ以テナリ(第四七條第一項)

一三 利害關係人ニ競落期日ニ於テ競落ノ許可ニ付キ陳述ヲ爲ナシムルコトニ關スル第六七一條

一四 競落許可ニ付テノ異議ノ理由ニ關スル第六七二條第六七三條

一五 異議ノ理由ノ存スル場合ノ裁判所ノ處置ニ關スル第六七四條第六七五條第六七七條

一六 競賣期日ト競落期日トノ間ニ天災其他ノ事變ニ因リ不動產カ著シク毀損シタルカ爲メ先ニ最高價競買人タル呼上ヲ受ケタル者ニ於テ其競買ヲ取消スコトニ關スル第六七八條ノ規定 此競買ノ取消ナレタル場合ニ於テハ裁判所ハ更ニ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告スルコトヲ要スルモノトス(競賣法第四七條第二項)

一七 競落許可決定ニ掲クヘキ事項該決定ノ公告ニ關スル第六七九條

一八 競落許可若クハ不許可ノ決定ニ對スル抗告ニ關スル第六八〇條乃至第六八二條及ヒ抗告裁判所ノ裁判ノ公告ニ關スル第六八三條

一九 競落人カ不動產ノ引渡ヲ求ムルコトニ關スル第六八七條

二〇 茲ニ注意スヘキハ増價競賣ノ手續ニハ民事訴訟法第六百八十八條所定ノ再競賣ノ規定ノ準用ナキコト之ナリ故ニ増價競賣ノ手續ニ於テ競落人カ代金支拂期日ニ其義務ヲ完全ニ履行セサルトキハ民法第三百八十四

競賣法 增價競賣 競賣並ニ競落ノ手續

條第二項第三項並ニ競賣法第四十七條第一項ノ趣旨ヲ援用シテ増價競賣

請求債權者ヲ以テ競落人ト定ムヘキモノト信ス

二 代價ノ支拂競落人カ取得シタル權利移轉ノ登記ノ屬託代價ノ中ヨリ

競賣ノ費用ヲ控除シ殘金ハ之ヲ受取ルヘキ者ニ交付スヘキコトニ關スル

第三十三條ノ規定ハ増價競賣ノ手續ニモ準用セラルルカ故ニ(第四六條第

二項)之ニ付テハ第三章ニ陳ヘタル所ヲ參照スヘシ

二 次ニ増價競賣ノ手續ニ於テモ競賣ニ代ヘテ入札拂ヲ爲シ得ヘキコト

法律ノ認ムル所ナリ(第四九條)

右入札拂ノ申立ヲ爲シ得ヘキ者ハ増價競賣請求者ニ限ルコト法律ノ明ニ規定

スル所ナリ而シテ此場合ニ於テハ民事訴訟法第七百三條乃至第七百五條ノ規

定ニ依ル外本章ノ規定ヲ準用スヘキモノトス(第四九條)

尙ホ入札拂ノ申立ハ何時迄ニ之ヲ爲スヘキヤニ付テハ別段ノ規定ナシト雖モ

競賣期日ノ公告ヲ爲ス前ナルコトヲ要スルモノト解釋スルヲ相當ト信ス(第三

四條參照)

第六章 動産ノ競賣

第一節 競賣ノ委任

第一 事件ノ管轄

動産ノ競賣ハ不動産及ヒ船舶ノ競賣ト異ナリ裁判所ニ於テ競賣實施ノ任ニ當
ルニ非スシテ競賣ヲ爲サントスル者ノ委任ニ因リ競賣ヲ爲スヘキ地ノ區裁判
所所屬ノ執達吏之カ競賣ノ任ニ當ルヘキモノトス(第三條第一項)

而シテ競賣ヲ爲スヘキ地トヘ其競賣ニ付セラルヘキ物ノ現在地ヲ謂フコト本
法ノ規定スル所ナリ(第五條)但物ノ現在地ヲ管轄スル區裁判所所屬ノ執達吏數
名アル場合ニ於テ其中ノ何人ニ競賣ヲ委任スヘキヤニ付テハ別段ノ制限ナキ
カ故ニ委任者ニ於テ隨意ニ決シ得ヘキモノト信ス

第二 競賣ノ委任ノ要件

(甲) 實體法上ノ要件 動産ノ競賣ハ留置權者先取特權者質權者其他民法又ハ
商法ノ規定ニ依リテ競賣ヲ爲サントスル者ノ爲メニ之ヲ許ス手續ナルカ故ニ

競賣法 動産ノ競賣 競賣ノ委任

(第三條第一項)競賣ヲ爲サントスル者カ競賣ノ委任ヲ爲スニハ必ス民法又ハ商
 法ノ規定ニ依リテ競賣ヲ求ムルノ權利ヲ有スルコトヲ要ス此點ニ付キ本講義
 第五頁以下參照隨テ執達吏ハ競賣ノ委任ヲ受ケタルトキハ委任者カ競賣ノ委
 任ヲ爲スノ權利ヲ有スルヤ否ヲ審査シテ若シ此權利無シト認ムルトキハ其委
 任ヲ拒絕スベキモノトス
 競賣委任者ニ委任ノ權利ナキ場合ナルニ拘ハラズ執達吏カ競賣ノ委任ヲ受ケ
 タルトキハ競賣ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ競賣ノ完結ニ至ルマテ執
 達吏ハ屬スル區裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘク(第一七條第一項之ニ
 反シテ執達吏ガ正當ノ理由ナキニ拘ハラズ競賣ノ委任ヲ受ケタルコトヲ拒絕シ
 タル場合ノ救済方法ニ付テハ本法ニ別段ノ規定無キカ故ニ執達吏規則第四條
 所定ハ監督官タル區裁判所判事ニ其實ヲ開陳シテ救済ヲ求ムヘキモノト信
 ズ

向ホ執達吏ハ執達吏規則第八條所定ノ場合即チ自己又ハ其婦カ當事者タル等
 ノ場合ニ於テハ職務ノ執行ヨリ除外セララルヘキモノナルカ故ニ此規定ニ違背

シテ競賣ノ委任ヲ受ケタル場合ニ於テハ利害關係人ハ又タ異議ノ申立ヲ爲ス
 コトヲ得ヘキモノトス(第一七條第一項)

(乙)一形式上ノ要件 動産ノ競賣ニハ其請求者ヨリ競賣ヲ爲スヘキ地ノ區裁判
 所所屬ノ執達吏ニ之カ委任ヲ爲スル要スルコト前陳ヘタルカ如ク其委
 任ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スルコトヲ要スルモノトス(第三條)但其書面ニ記載スル
 キ事項ニ付テハ別段ノ明文ナキモ左ノ事項ハ之ヲ記載セテ且委任者ニ於テ之
 署名捺印スルハ必要アリト信ズ
 一 競賣委任者ノ氏名住所
 二 競賣ニ付テハキ物ノ種類數量及ヒ品質
 三 競賣ヲ求ムル原因
 四 競賣ニ付セラルヘキ物ノ所有者ノ氏名住所
 五 競賣委任年月日
 六 競賣ノ委任ヲ受ケル執達吏ノ表示
 七 競賣委任書ニ署名捺印スルハキ物
 尙ホ競賣ノ委任代理人ヲ別テ之ヲ爲サシ得ルモノトス(前條)不動産ノ競賣

競賣法 動産ノ競賣 換領手續

動產競賣公告

スヘキモノナルコトハ法律解釋者ノ依頼ニヘキ標準ニシテ此用例ヲ按ズレバ
右ノ如キ物ト解スルコト相當ナルミチヲ普通人斯業ノ専門家以外ノ者ニ
於テ時價ヲ知リ居ル物件ニ付テハ特ニ鑑定ヲ煩掛ケテ利害關係人ヲ保護スル
ノ必要ナクレハナリ

向ホ高價品ノ就賣ニ方リ之ヲ高價品ナラスト認メテ鑑定ヲ命ゼサル場合ニ於
テ利害關係人ハ其就賣手續ニ對シ異議ヲ申立タルコトヲ得ヘキモノト信ス
鑑定ヲ爲スヘキ者ノ資格ニ付テモ法律ニ別段ノ規定ナキカ故ニ軌速更ニ於テ
相當ト認ムル者ニ之ヲ命スルコトヲ得ヘク鑑定ノ費用ハ就賣費用ノ一部ナル
カ故ニ就賣ノ完結後軌速更ニ於テ賣得金中ヨリ之ヲ支拂フヘキモノトス(第一
五條)

第二章 就賣ノ實施

(甲) 一般ノ申込並ニ高價品ノ就賣ノ申込

就賣ハ其條件第七條ノ三ヲ參照スヘシテ告知各箇ノ就賣物ニ付キ一就買
ノ申込ヲ催告スルニ始メ其申込ノ中最高價ノ就買ヲ申込マシ三回呼上ケ其以

上ノ競買申出ナキトキ此者ヲ競落セザル旨ヲ傳知スル爲メ因テ了ス第
三條ニ其拍賣手續ハ三ノ條照スルモ當該ノ拍賣物ノ競買者ハ一競買
尙ホ競買ノ申込ハ他ニ之ヨリモ高價ナル競買ノ申込アリタルトキ又ハ競落ヲ
爲ナスルヲ競買ヲ終了シタルトキハ當然其效力ヲ失ヒ恰モ申込セザリシモノ
ト同一ニ歸スヘキモノトス(第一條)又タ競買期日ニ競買ノ申込ヲ爲スモノナキ
トキハ競速更ニ更ニ期日ヲ定メ之ヲ通知公告シテ然ル後又タ競買ヲ爲スコト
ヲ要ス(第二條)又タ競買期日ニ競買ノ申込アリタルトキハ競速更ニ更ニ期日
ヲ定メ之ヲ通知公告シテ然ル後又タ競買ヲ爲スコトヲ要ス(第三條)又タ競買
尙ホ動産ノ競買ヲ終了スルモノハ別ニ時間ニ制限ナキカ故ニ競速更ハ相當ノ買
主アリト認ムルトキハ何時ニテモ競落ヲ告知シテ競買ヲ終局スルコトヲ得ル
モノトス但競落ニ方リテハ競速更ハ競買申込人カ賣買契約ヲ爲スノ能力ヲ有
者ナキヤ否等ノ事實ヲ審査スルヲ要スルヤ勿論ナリ(第四條)又タ競買
(乙) 制限 尙ホ競買ノ實施ニ關シ本法ノ設タル制限左ノ如シ(一)競買人ハ若シ
一買主ニ關スル制限ニテ(イ)競買ノ委任ヲ受ケタル競速更ハ其競買人ト爲
ルコトヲ得サルコト、(ロ)債權者ノ委任ニ因リテ競買ヲ爲ス場合ニ於テハ債務

者ハ現金ヲ以テ代價ヲ提供スルニ非サレバ其競買ノ申込ヲ爲スヲ得サルコ
ト之ナリ(第四條)又タ競買ニ關シテハ(一)競買人ハ若シ一買主ニ關スル限
二代價ニ關スル制限三アリ(イ)競買人ハ若シ一買主ニ關スル限(イ)競買
(イ) 高價品ノ競買ニハ先テ鑑定人ヲシテ評價ヲ爲サシムルコトヲ要ス第
○條然レドモ此評價額以下ニ賣却スルコトヲ許サストモ規定無キカ故ニ若
シ競買期日ニ於テ實際其額以上ノ競買ノ申込ナキトキハ競速更ハ其以下ニ
於テ相當ノ買主ト認ムル者ニ競落スルコトヲ妨ケラレルコトナシ(イ)競買
(ロ) 金銀及ヒ金銀ノ製品ハ地金銀ノ相場以下ノ代價ヲ以テ之ヲ競買スル
コトヲ得ス又タ取引所ノ相場アル物ハ其相場以下ノ代價ヲ以テ之ヲ競買スル
コトヲ得ス第一一條是等ノ物ヲ競買スル場合ニ於テ競買ノ日ニ相當ナル競
賣ノ見込ナキトキハ競速更ハ金銀及ヒ金銀ノ製品ニ付テハ地金銀ノ相場以
上ノ代價ヲ以テ又タ取引所ノ相場アル物ニ付テハ競買ノ日ニ相當ナル競
價ヲ以テ任意ニ之ヲ賣却スルコトヲ得ルモノトス(第二條)又タ金銀及ヒ
茲ニ注意スヘキハ金銀ノ製品ハ必ズ金銀ノ製作者ノ署名アル物ヲ指セ

トヲ要スルヤヲフコト之ナリ。車見ニ依リハ金銀ノ製品トハ物件ノ主要部分
カ金銀ニテ製作セラレタルコトヲ謂フモノニシテ其附屬物トシテ金銀以外
ノ礦石、金屬、竹木等ノ附加セラレタルコトアルモ玆ニ所謂金銀ノ製品ト解釋ス
ルヲ相當トス。故ニ例ヘハ木製若クハ石製ノ臺上ニ安置セラレタル金銀製肖像
ノ如キ寶玉ノ鑲メアル金銀製肖像ノ如キハ右ニ所謂金銀ノ製品トシテ一括
シテ取扱フヘキモノトス。
尙ホ右陳ヘタル第十二條ノ規定ニ從ヒ競賣ノ方法ニ依ラスシテ執達吏カ任
意ニ物ヲ賣却スル場合ニ於テモ執達吏ハ其買主ト爲ル能ハサルモノト解ス
ルヲ相當ト信ス何トナレハ前陳第四條ノ規定ハ執達吏ヲシテ嚴正ニ職務ヲ
行ハシメンカ爲メニ設ケラレタル規定ナリト解スヘキヲ以テ「競買人ト爲ル
コトヲ得サルニ止マラス前記任意ノ賣買ニ於テモ買主ト爲ルコトヲ許ササ
ルヲ相當ト認ムヘキノミナラス公衆ノ間ニ行ハルル競賣ノ手續ニ於テスラ
之カ買主ト爲ルコトヲ許ササルニ縱令一定ノ相場以上ノ代價ヲ以テスルニ
セヨ執達吏カ任意ニ賣却スル場合ニ於テ之カ買主ト爲ルヲ得ヘシトノコト

ハ 理解スヘカラサル所ナレハナリ

第三 競賣調書

執達吏ハ競賣調書ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載シ署名捺印スルコトヲ要ス（第一
四條）之利害關係人ノ利益ヲ保護シ且執達吏ノ處分ニ對シ異議ノ申立アリタル
場合ニ於テ判斷ノ一材料ト爲スカ爲メナルコト不動産ノ競賣ニ於ケル調書ト
同シ書式第十七號參照ス。

- 一 競賣委任者ノ氏名住所
- 二 競賣ニ付スヘキ物ノ種類數量及ヒ品質
- 三 鑑定人ヲシテ評價ヲ爲サシメタルトキハ其評價額
- 四 競賣ノ場所及ヒ日時
- 五 第九條但書ノ特別ノ事由アリタルハ其事由
- 六 利害ノ關係ヲ有スル者ニ通知ヲ發シタルコト若シ之ヲ發セザラシトキハ其事由
- 七 告知シタル競賣ノ條件ハ其告示ニ其申出附屬

照會

何區裁判所執達吏

何

某印

舊より法を醫治せし

何
某印

本冊(計算書)此以下三冊附

同日同謝之知大北國

[illegible]

競賣目録

番號	競賣物	高價評定額	競買申込價額	說落人	備考
1001	競賣物	高價評定額	競買申込價額	說落人	備考
1002	競賣物	高價評定額	競買申込價額	說落人	備考
1003	競賣物	高價評定額	競買申込價額	說落人	備考
1004	競賣物	高價評定額	競買申込價額	說落人	備考
1005	競賣物	高價評定額	競買申込價額	說落人	備考
1006	競賣物	高價評定額	競買申込價額	說落人	備考
1007	競賣物	高價評定額	競買申込價額	說落人	備考
1008	競賣物	高價評定額	競買申込價額	說落人	備考
1009	競賣物	高價評定額	競買申込價額	說落人	備考
1010	競賣物	高價評定額	競買申込價額	說落人	備考

第四
競落

競落ハ執達ニ於テ之ヲ告知スヘキモノナルコト前陳ハタルガ如シ而シテ競落ノ效果トシテ競買人ハ競賣ノ目的タル權利即チ動産ノ所有權ヲ取得スヘク其物ニ付キ存スル先取特權ハ競落ニ因リ消滅スヘキモノトス(第二條第一項)但テ競買人ハ留置權者競賣人ニ對シテ優先權ヲ有スル質權者及ヒ其質權者ニ對シテ優先權ヲ有スル債權者ニ對シテ排濟ヲ爲スニ非ナレハ競賣ノ目的物ヲ受取ルコトヲ得サルモノトス(第二條第二項)

第三節 異議ノ申立

第一 一般

動産ノ競賣手續ニ於テハ利害關係人ノ利益ヲ保護セシムカ爲メ其手續ニ關スル
執達及ノ處分ニ付キ其所属區裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ許ス第一七條
尙キ前陳アル所ニ從ヒ異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ノ競賣ノ停止ヲ命ス
ルコトヲ得ヘキモノヲ元則トス(第一八條參照)

- (甲) 異議ヲ申立テ得ヘキ者ハ競賣ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者ニ限ル、利害ノ關係ヲ有スル者トハ如何ニ付キテハ前陳ヘタル説明ヲ參照スヘシトモ命令スルヲ要ス
- (乙) 異議ノ申立ノ管轄裁判所ハ競賣手續實施ノ任ニ當ル執達吏ノ屬スル區裁判所ナリ(裁判所構成法第九四條參照執達吏規則第四條)其手續ニ關スルハ以テ足ル故ニ競賣委任者目的物件執達吏ノ氏名異議ノ存スル理由其求メントスル所例ヘハ競賣手續ヲ取消シ競賣ヲ許ナスヲ裁判アリ度シト云フカ如キヲ表示シ年月日裁判所ヲ記載シ之ニ署名捺印スヘク若シ代理人ヲ以テ異議ヲ申立ラシムルトキハ代理人之ニ署名捺印シ且委任狀ヲ添付スルコトヲ要スルヤ勿論ナリ
- (丙) 異議申立書ノ形式ニ付テハ別段ノ規定ナキカ故ニ苟モ其趣旨ヲ認メ得ルヲ以テ足ル故ニ競賣委任者目的物件執達吏ノ氏名異議ノ存スル理由其求メントスル所例ヘハ競賣手續ヲ取消シ競賣ヲ許ナスヲ裁判アリ度シト云フカ如キヲ表示シ年月日裁判所ヲ記載シ之ニ署名捺印スヘク若シ代理人ヲ以テ異議ヲ申立ラシムルトキハ代理人之ニ署名捺印シ且委任狀ヲ添付スルコトヲ要スルヤ勿論ナリ
- 尙ホ此申立書ニハ金額二十錢ニ相當スル收入印紙ヲ貼用スルコトヲ要ス民事訴訟用印紙法第一〇條第一六條參照
- (丁) 異議ノ申立ヲ爲シ得ヘキ時期ハ競賣ノ完結ニ至ルマデナリ之蓋シ異議ヲ許ス所以ハ不當ナル競賣手續ヲ止ムルコトヲ目的トスルヨリ生スル當然ノ

第三項 裁判所職員ノ能力

裁判所ノ職員タル能力ニ國法上ノ能力ト非訟事件法上ノ能力トナリ國法上ノ能力トハ裁判所ノ職員タルコトヲ得ル能力ヲ云フ此能力ヲ欠缺スルトキハ裁判所ノ職員タル能ハス其一般ノ資格ニ付テハ裁判所構成法ニ規定ス該能力ノ研究ハ國法學ノ範圍ニ屬スヘキモノトス

非訟事件法上ノ能力トハ裁判所ノ職員ハ國法上ノ能力ヲ具備スルモ非訟事件手續法上尙ホ裁判所職員トシテ各箇ノ事件ニ付キ其職務ヲ執ルニ必要ナル要件アルヲ以テ此要件ヲ具備スルニ非サレハ其職務ヲ行フコト能ハサルナリ本項ニ於テ講述セントスルハ此要件ナリ

非訟事件手續法第五條ニ依レハ裁判所職員ノ除斥ニ關スル民事訴訟法ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用スト然ルニ訴訟法上除斥ヲ稱スルハ裁判所職員カ或訴訟事件ニ付テ法律上當然其職務ヲ執行スルコト能ハサル場合ヲ謂フ凡ソ裁判

ハ公平ナラサルヘカラス若シ裁判ニ付テ公平ヲ欠ク恐アルトキハ裁判ノ威信ヲ失墮スルカ故ニ此恐アル裁判所職員ヲシテ其事件ニ關與セシメザルハ裁判ノ威信ヲ保持スルニ最も必要ナル方法ナリトス除斥ハ法律上裁判所職員カ公平ナル判斷ヲ爲ス能ハサル恐アリト認メタル場合ナリ之ヲ以テ裁判所職員カ非訟事件ニ於テ其職務ヲ行フコト能ハサル場合トハ別テ除斥ヲ云フ然レトモ民事訴訟法ニ於テハ裁判所ノ職員中單ニ判事及ヒ裁判所書記ニ付テ規定スルニ止マルヲ以テ從テ非訟事件手續法第五條ニ所謂裁判所職員トハ亦右兩職員ヲノミ指稱セタルモノナリ

裁判所ノ構成ニ付テハ明治二十三年七月法律第五十一號執達吏規則第八條ヲ參照スヘシ

判事カ法律ニ依リ其職務ノ執行ヨリ除斥セラレタル場合ニ付テハ民事訴訟法第三十二條ニ之ヲ規定セリ判事ニ此除斥ノ原因アル場合ニハ法律上當然其職務執行ノ能力ナキハ勿論事件ノ關係人ヨリ忌避ヲ爲スコトヲ得ヘシ民事訴訟法第三十三條第一項忌避トハ除斥ノ原因アル場合ニ事件ニ關與スル判事ノ裁判ヲ受ケテ

ルコトヲ得ル事件ノ關係人ノ權能ナリ從テ忌避ハ申請ヲ俟テ始メテ發生スルモノナレハ裁判所ハ該申請アレハ必ス相當ノ裁判ヲ爲ササルヘカラス

忌避申請ノ條件ニ付テハ民事訴訟第三四條第一項第三五條第一二項又其裁判手續ニ付テハ同法第三六條乃至第三九條之ヲ規定セリ

忌避ノ申請アル場合ヲ除クノ外除斥ノ原因アルコト明白ナルトキハ固ヨリ何等ノ裁判ヲ要セサルモ忌避申請ノ管轄裁判所ハ判事ノ申出又ハ他ノ事由ヨリシテ判事カ法律ニ依リ除斥セラルル疑アルトキハ其原因ノ有無ニ付テ裁判セサルヘカラス民事訴訟第四〇條

裁判所書記ニ對スル除斥ニ付テハ民事訴訟第四一條ニ規定セリ

民事訴訟法ニテハ除斥ノ外尙ホ裁判所職員ニ偏頗ノ恐アルトキハ當事者ヨリ其職員ヲ忌避スルコトヲ得セシメタリ然レモ非訟事件ニ於テハ偏頗ノ原因トシテハ關係人ニ裁判所職員ヲ忌避スルコトヲ許ササルハ何ソヤ是レ緒論ニ於テ既ニ述ヘタル如ク非訟事件ニ於テハ專ラ手續ノ簡易迅速ヲ旨トシ時間勞力費用ヲ節スルノ根本主義ヨリ亦リタルト除斥ノ規定アレハ充分ナ

リトノ理由ヨリ出タルモノナラン

第二款 裁判所外部ノ構成

凡ソ官廳ノ職務權限ヲ定ムルニ二方法アリ一ヲ分職制ト云ヒ他ヲ分地制ト稱ス前者ハ事物ノ性質上ヨリ職務權限ヲ定ムル方法ニシテ後者ハ地域上ヨリ職務權限ヲ定ムル方法ナリトス

裁判所ノ職務權限ヲ定ムル方法ニ付テハ右二制度ヲ併用シ名ケテ裁判所ノ管轄ト云フ而シテ分職制ニテ職務權限ヲ定ムル方法ヲ事物ノ管轄ト稱シ分地制ニテ職務權限ヲ定ムル方法ヲ土地ノ管轄ト稱ス

第一項 事物ノ管轄

事物ノ管轄トハ一定ノ事件カ其事件ノ性質又ハ裁判權行使ノ方法ニ因リテ或裁判所ニ限リ裁判權ヲ行使スルコトヲ得ル權能ヲ謂フ故ニ事物ノ管轄ニハ階級ニ因ル管轄ト事件ノ性質ニ因ル管轄トニ類別スルコトヲ得

第一 階級ニ因ル管轄

階級管轄トハ裁判所ノ管轄カ裁判權行使ノ方法即チ最初ニ事件ノ裁判ヲ爲スモノト其裁判ノ審査ヲ爲スモノトノ區別ニ依リ定マルモノヲ云フ

(一) 事件ノ裁判ヲ爲ス最初ノ裁判所ハ區裁判所及ヒ地方裁判所ナリトス裁
構法第一五條第一七條第三〇條

(二) 裁判ノ審査ヲ爲ス裁判所所謂抗告裁判所ハ區裁判所ノ決定及ヒ命令ニ
對スル抗告ニ付テハ地方裁判所トシ(裁構法第二九條)地方裁判所ノ決定及ヒ

命令ニ對スル抗告ニ付テハ控訴院トス(裁構法第三七條第三號)

(三) 裁判ノ再審査ヲ爲ス裁判所即チ講學上所謂再抗告裁判所ハ本法第二四
條區裁判所ノ決定及ヒ命令ニ對スル再抗告ニ付テハ控訴院トシ裁構法第三
七條第三號)地方裁判所ノ決定及ヒ命令ニ對スル再抗告ニ付テハ大審院ナリ
トス(裁構法第五〇條第一號)

第二 事件ノ性質ニ因ル管轄
非訟事件ハ時間勞力費用ヲ節シ專ラ簡易迅速ヲ旨トスルカ故ニ原則トシテ裁

判所ノ管轄ニ屬スル非訟事件ニ付テハ區裁判所ノ管轄ニ屬セシム裁辦法第一五條第一七條本法第三四條第三五條第三七條第三八條第六三條乃至第六五條第六七條第七三條第八〇條第八一條第八三條乃至第八六條第九〇條乃至第九四條第九六條乃至第九八條第一〇三條第一〇四條第一〇七條第一〇九條第一一一條第一一七條第一一八條第一二六條第一三六條及第一三九條競賣法第二二條第三六條第四〇條不動產登記法第八條唯特ニ重要ナル事件ナルカ若クハ他ノ訴訟事件ト牽聯スルカ爲メ事件ノ審査ト處分トニ便宜ナルヨリシテ一二ノ事件ヲ地方裁判所ノ管轄ニ屬セシメタルノミ裁辦法第三〇條本法第六六條第六七條第一二六條第二〇六條

第二項 土地ノ管轄

裁判所ノ土地ノ管轄トハ土地ノ區域ニ因リテ定メタル裁判所ノ管轄ナリ即チ事物ノ管轄ニ依リ數箇ノ同種類ノ裁判所中ニ於テ土地ノ區域ニ從ヒ裁判權ヲ行使スヘキ範圍ヲ限定セルモノナリ土地ノ管轄ハ裁判所ヨリ看察スルトキハ

一種ノ權限ナルモ非訟事件ニ付テ各人又ハ其事件カ或地ノ裁判權ニ服從スル點ヨリ看察スルトキハ一種ノ屬籍トモ謂フヘキヲ以テ又之ヲ裁判籍トモ稱ス民事訴訟法ニ依リハ土地ノ管轄即チ裁判籍ニ普通裁判籍ト特別裁判籍トノ別アリテ普通裁判籍アル地ノ裁判所ハ被告タル人ニ對ス總テノ訴ニ付キ管轄權ヲ有ス然ルニ非訟事件手續法ニ於テハ各人ニ付テノ總テノ非訟事件ヲ管轄スル裁判所所謂普通裁判籍ナルモノナシ何レモ特別裁判籍ト稱スヘキモノナリ然レトモ原則トシテ裁判籍ハ人ニ付テハ其住所地ノ裁判所ニ法人ニ付テハ其事務所所在地ノ裁判所ニ存在ストシ例外トシテ訴訟事件トノ關係又ハ其他ノ關係ニ因リ或他ノ土地ノ裁判所ニ存在スト爲セル主義ヲ採用セルモノノ如シ非訟事件手續法ニ於ケル土地ノ管轄ニ付テノ規定ヲ列舉スレハ左ノ如シ

(一) 住所地ノ裁判籍 此裁判籍ニ付テハ本法第三四條第三八條第六三條第六四條第九〇條乃至第九二條第九六條第九八條第一〇九條第一一八條及

第二〇六條ニ之ヲ規定セリ三八條第四條第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條第十八條第十九條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十二條第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第七十四條第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十四條第八十五條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條第一百條

記載意匠法第二條ニ「工業上ノ物品ニ應用スル形状・模様・色彩又ハ其結合ニ係ル新規ノ意匠ヲ按出シタル者ハ云云ト記載セリ而シテ工業上ノナル文字ハ二様ニ解釋シ得ルハ一「工業上用ヒラル」ニ「義ヲ解釋スル」ニシテ二ハ「工業ニ因テ生ズル所」ト見ルモノナリ先テ意匠法ニ就テ考フルニ意匠ノ目的タル物件ハ織物・刺繡・其他手裝飾の物品ヲ主トスルヲ以テ所謂工業上ノ物品ハ工業上用ヒラルニキ物品ト解スルコトヲ得サルコトハ勿論ナリ乃チ工業ニ因テ生ズル物品ト見ル外ナシ然ルニ特許法第一條ニハ「工業上ノ物品及方法」トアリ工業上ノ物品ハ意匠法ト同様ノ解釋ヲ取ルトスルモ工業上ノ方法ニ至リテハ「工業ニ因テ生ズル所」ノ方法ナルモノ有ルヘキ理ナキヲ以テ工業上用ヒラルヘキ方法ト解スルノ外途ナシ而シテ同一條文中物品ト方法トニ依リ別義ニ解釋スルコトヲ得サルヲ以テ特許法第一條ノ「工業上ノ物品」ハ亦タ工業ニ用ヒラルヘキ物品ト見サルヘカサルカ果シテ然ラハ發明ノ目的甚タ狭キニ失シテ工業ノ發達ヲ保護スル趣意ヲ貫クコト能ハサルヲ恐ル何トナレハ服裝品・家具・什器ノ如キ之ヲ製作スルハ工業ニ屬スルモ物品其物ハ工業ニ用ヒラ

ルヘキ物品ト謂フヘカラス然ルニ此等物品ノ發明モ亦極メテ保護ノ必要アリテ各國立法例中之ヲ除外スルモノ無シ然ラハ工業上ノ物品ハ如何ニ之ヲ解釋スヘキヤ余ハ曾テ特許法ノ講義ニ於テ（特許法講義三六頁物品ノ發明ト云フハ語弊アリ發明ノ目的物ハ具體の物件ニ非スシテ考案其物ナリト説明セリ通常物品ノ發明ト稱スルハ此考案ノ實現ハ直ニ物品ナルカ故ナリ特許法ニ於テ工業上ノ物品及方法ニ關シト記載セルハ亦タ此ノ通常ノ用語ヨリ來ヒル過アルカ如シ乃チ此ノ物品及方法ハ發明ノ目的タル考案其物ヲ指シタルモノニシテ具體的ニ物品方法ヲ指シタルニ非ス唯タ此考案ニ物品ニ關スルモノト方法ニ關スルモノトアルヲ以テ遂ニ工業上ノ物品及方法ニ關シト記載セルモ其趣旨ハ物品及方法ニ關スル工業上ノ考案ト云フト同シ已ニ工業上ノ考案ト云フ以上ハ工業上ノ方法ト云フカ如ク工業上用ヒラルヘキ考案ト解スルハ外途ナカルヘシ則チ家具・什器・服裝品・其他總テ工業製品ニ關スル發明ハ其物品ノ製造即チ工業ニ用セララルモノナルヲ以テ其製品ハ工業上ニ用ヒラルト否トヲ問ハズ特許ヲ受クルコトヲ得ヘキナリ之ヲ要スルニ工業上ノナル文字ハ特許法

意匠法 意匠

131

以テ新規ナル文字ハ他ニ先案者アルヲ妨ケタル義ナリト解釋セザルヘカラス
果シテ然ラハ新規ナル意匠ト謂フハ未タ世ニ公ニセシムル意匠ト云フ義ナ
リ此ニ於テ更ニ一疑問ヲ生ス乃チ此ニ所謂新規トハ意匠案出ノ際ニ於テ未
タ世ニ公ニセラレタルコトヲ謂フヤ將タ登録出願ノ際ニ於テ未タ世ニ公ニセ
ラレタルコトヲ要スルヤノ點也意匠案出ノ際ニ新規ナルコトヲ要スヘキハ法
文ニ「新規ノ意匠ヲ案出シタル者」トアルヲ以テ文義上當然ナルカ如シ然ルニ意
匠法第二條ニ於テ意匠登録出願前公ニ知ラレ又ハ公ニ用ヒラレタル意匠ハ登
録ヲ受タルコトヲ得サル旨ヲ規定セリ意匠ヲ案出シタル際ニハ未タ會テ世ニ
知ラレザリシモノモ其登録ヲ出願スル前ニ或ハ公ニセラレタルコト無シトモ
(他人ノ案出セル同一意匠カ公ニセラル場合アリ又自己ノ意匠カ公ニセラル
ルコトアリ)此カル意匠モ亦タ登録ヲ受タルコトヲ得テラシムル必要アルヲ以
テ第二條第三號ノ規定ノ必要ナルハ言ヲ待タズト雖モ已ニ此規定アル以上ハ
第一條ノ新規ナル文字ハ不用ニ屬スヘシ何トナレハ案出ノ際新規ナルナルモ
ノハ當然ニ出願前ニ公知ノモノタルヘクレハナリ故ニ丁抹國特許法ニ於テハ

公知公用ニ該當スル規定ノミヲ設ケテ新規ナル文字ヲ用ヒス然レトモ多數ノ
立法例ニ在リテハ公知公用ニ該當スル規定ヲ置クト同時ニ又新規ナル文字ヲ
モ用フ米意、伊意、獨特及實意、句特、埃特、佛特、伊特、西特、瑞特而シテ此内多數ハ公知
公用ニ該當スル規定ヲ以テ新規ナル文字ヲ解シタルモノナリ伊特二及四、西特
一及四、瑞特一及二、佛特一二及三、獨特一及二、同實意一、句特一及三、埃特一及三、
此内伊、西特許法ノ外ハ何何ノ事實公知公用ニ該當スル事實ナキモノハ新規ト
看做スト云ハスシテ却テ何何ノ事實アルモノハ新規ト看做スト云フ意味ニ
規定セルヲ以テ解釋上疑ヲ揮ム餘地アルカ如シト雖モ實際ハ各國一様ニ取扱
ヘ居レリ) 五、發明ハ考案其物ナリ意匠ハ考案其物ニ非スシテ考案ノ實現即チ雛形ナリ
ト云ハハ發明ト意匠トハ其態様ニ於テ已ニ歷然タル區別アリ然レトモ意匠ヲ
考案其物ト假定スルモ尙兩者ノ間本質上ノ區別アリ發明ハ工業上ノ物品又ハ
方法ニ關スル技術的考案ニシテ意匠ハ工業上ノ物品ニ應用スヘキ形狀、模様、色
彩ニ關スル美術的考案ナリ前者ハ實用ヲ目的トシ後者ハ美觀ヲ目的トス物品

ノ發明ニ在リテハ物ノ構成裝置組合セテ合色ニ關シ意匠ノ考案ハ物ノ形狀模
 樣色彩ニ關スルモノ構成ニ關スルモノトナシ
 六 意匠ニ對シテ實用意匠ナルモノアリ特許法講義四一頁參照實用意匠ト發
 明トノ區別ハ特許法講義ニ略說セルカ如ク困難ナル問題ナリ蓋シ實用意匠ハ
 實用ヲ目的トスル點ニ於テ發明ト一致シ又多クハ工業上ノ物品ノ構成ニ關ス
 ル考案ナル點ニ於テ發明ト一致ス之ニ反シテ實用意匠ト意匠トハ其目的ニ於
 テ明白ナル區別アリ意匠ハ人ノ美觀満足セシムルヲ目的トスルモノナレトモ
 實用意匠ハ實用即チ物品ノ利用ヲ目的トスルモノナリ此ヲ以テ意匠ハ色彩模
 樣ニ關スルモノヲ通例トスレトモ實用意匠ニ在リテハ色彩模様ニ關スルモノ
 無シ色彩ニ關スル實用意匠ハ想像シ得サルニ非ザレトモ獨逸實用意匠法ノ如
 キハ之ヲ保護スル規定ナシ之ニ反シテ意匠ハ物品ノ構成ニ關スルモノ無シ物
 品ノ構成ニ關スル意匠モ亦タ想像シ得サルニ非スト雖モ我意匠法ハ之ヲ保護
 セズト雖モ實用意匠ハ物品ノ構成ニ關スルモノ却テ多數ナリ
 然レトモ實用意匠ト意匠トカ共ニ物品ノ形狀ニ關スル場合ニ於テ彼此ヲ識

假令停職ノ命令アリテ職務ヲ執行スル能ハサルトキト雖モ同條所定ノ一場合
 タリ得ルヲ以テ停職公證人ニシテ他ニ代理ヲ囑託スルトキハ公證事務ノ執行
 ニハ毫モ差支ヲ生スルコトナク特ニ兼任ノ必要ナキハ後ナラス若シ囑託及兼
 任カ同時ニアラズトキハ兼任者ト受託者ト重複稱號スルナキヲ保セサル疑
 ヲ生ス可シ然レトモ已テ得ナル事故トハ正當ナル理由ヲ言ヒ(二七頁參照從テ
 第十一條所定ノ場合ハ法律上完全ナル活動力ヲ有スル公證人カ正當ノ理由ニ
 因リ執行スル能ハサル場合ヲ豫想シタルモノナリ然ルニ停職ハ制裁ノ處分ニ
 シテ當該公證人ハ其正當ナラザル行為ニ基キ活動力ヲ剝奪セラレ其結果トシ
 テ職務ノ執行不能ニ陥リタルモノナルカ故ニ停職ノ場合ハ代理ヲ囑託スルコ
 トヲ得サルモノト解釋ス可ク從テ其欠缺ヲ補フ爲メニ兼任ヲ命スルコトハ前
 ニ述ベタル如シ
 後任者又ハ兼任者ハ其役場ニ於ケル一切ノ公證事務ヲ付テ責任ヲ有スルモノ
 兼テ前任者又ハ兼任者ト異ルコトカ既ニ完了シタル公證書類ニ付テ之ヲ
 變更スルコト能ハズト雖モ未完了ノ部分ニ關シテ之ヲ引繼キタル後ニ於テ完

相續財產トナラズ又他人ニ譲渡シ得可キモノモ非サ此ガ故然必ス之ヲ代リ
テ保管ノ任ニ在ルモノニ引渡ササル可キヲ此引渡ヲ受テ可キモノモ後任者
又ハ兼任者ナリトス此ハ大體ニ於テハ公証書ニ公證人ノ姓名ヲ附シ
後任者ニ付テハ何等ノ制限ヲ設ケズト雖モ兼任者ハ近隣ノ公證人タル可キモ
ノトス故ニ同一區裁判所ノ管轄地域内ニ數名ノ公證人アルトモ其ノ役場ハ
最モ接近シタルモノニ兼任ヲ命スルモノニシテ從テ公證人ニ非サルモノハ書類
ノ引渡ヲ受タル資格ナシ而シテ公正書類ハ人民ノ權義ノ證明ニ關スルコト大
ナルカ故ニ出來得ル限リハ當該公證人ノ受持區内ニ保存スルコトヲ以テ公益
ニ合スルモノトス此理由ヨリシテ近隣ノ公證人ニ兼任ヲ命スルモノハ近
隣ノ公證人トハ之ヲ狹義ニ解シ同一區内ニ於ケル最近隣ノ公證人ヲ爲ササル
可カラス若シ然ラスシテ單ニ失格公證人ノ役場ヨリスル事實上ノ距離ノミヲ
以テ之ヲ計算セシカ時トシテハ同一區内ノ公證人ノ役場ニハ遠クシテ他管公
證人ノ役場ニハ却テ近キ場合アル可キ此時ニ當リ兼任者ハ同管内ニ他ノ公證
人アルニモ係ハラズ他管公證人ヲ命セサル所トナサシカニ公證人ニ付テニ

箇區裁判所管轄地ヲ以テ其受持區トナスモノナルニ至テ結局公證人ノ受持區
ハ區裁判所ノ管轄地ニ符合ス可キ原則ニ抵觸ラ來タシ延セラザル數ノ制限區外
職務ノ禁止等ノ規定ト公益トヲ併セテ蹂躪スルノ結果ヲ生スレハナリ此故ニ
若シ一受持區内ニ於テ公證人カ失格者一名ナルモハ近隣ノ公證人ハ悉ク他
管内ノモノナルヲ以テ此場合ニアリテハ到底兼任者アルコト能ハス然レモ
公正書類ハ他管内ニ送致スルコトヲ得ス又其儘ニ放任スルトモハ危險大ナル
カ故ニ管轄地方裁判所ハ該書類ニ對シテ相當ナル處分ヲ爲ササル可カラス其
處分トハ書類ノ封印即チ是ナリヨリハ公證人ノ員數ハ同一區内ニ於テ十名以不
公正書類ハ分割シテ保存ス可カラス法律カ公證人ニ對シ見由帳又ハ提要目錄
等ノ調製ヲ命スルハ畢竟書類ノ整理保存ニ便カラシメカ爲メナリ故ニ其引
繼モ一人ノ公證人ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ要ス諸ノ換證ヲ書ヘハ兼任者ハ必
ズ一名ナラサル可カラサルナリ此ハ公證人ノ義務又ハ義務ニ對シテ其代
書類ノ引繼ノ手續ニ付テハ役場ヲ廢止シタル場合直チニ後任者若シハ兼任
者ノ任命アリタル場合役場ヲ廢止シタルニ非サルモ直チニ後任者若シハ兼

六七

(b) 引渡人ナキ場合
前任者ノ死亡失踪其他之理由ニ依リテ失格タルトキハ後任者又ハ兼任者ハ到底前項ノ手續ヲ完了スルコトヲ得テ法律ハ此不便ヲ補フ爲メ管轄地方裁判所ノ官吏ヲシテ前任者ニ代リテ立會ハシメ以テ提要目錄ヲ作り書類ヲ授受ス爲メ可キモノト定メタリ
提要目錄ハ何レノ場合ヲ問ハズ書類ヲ授受スル前ニ之ヲ作成シ後任者又ハ兼任者ハ其作成ノ日ヨリ一月以内ニ其目錄ノ原本一通ヲ管轄地方裁判所ニ提出ス可キ義務アルモノトス從テ之ヲ履行セサルトキハ制裁ヲ受ク可シ
提要目錄ハ從來前任者ニ存シタル書類保管ノ責任ヲ後任者又ハ兼任者ニ移轉スル效力アルモノナルカ故ニ其作成ハ授受ノ當事者ニ對シテ利害關係頗ル大ナリ之ヲ以テ未タ書類ヲ授受セサルニ先テ前任者ト後任者又ハ兼任者ト立會ハシメ見出帳ニ基キ書類ヲ點檢シタル後之ヲ作成シ雙方ノ署名捺印ヲ經可キモノトス既ニ提要目錄ヲ作成シタル書類ハ授受アリタル後ハ後任者又ハ兼任者ハ該目錄ニ記載シタル書類全部ヲ前任者ヨリ受付セラレタルモノト推定ス

何トナレハ既ニ提要目錄ニ署名捺印シテ授受ノ形式ヲ完了シタル以上ハ假令實際ニ於テ書類ノ點檢ヲ爲サザラシトアリトスルモ職務ノ承繼ハ當然其職務上保管ス可キ書類ノ承繼ヲモ包含スルモノナルヲ以テ此ノ如キ推定ヲ受テ可キモノナラ然レトモ若シ前任者ニ詐欺ノ所爲アルカ故意ニ點檢ヲ拒絕シタルカ如キ反證アルニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ不利益ナル推定ヲ免カル可キナリ概言スルニ提要目錄ノ作成ハ一方ニ於テハ前任者ニ對シ書類保管ノ責任ヲ免シ他ノ一方ニ於テハ後任者又ハ兼任者ニ對シテ新ニ此責任ヲ負擔セシムル效力アリトス其ニ經テ證明スルニ及ビタル後任者ハ其職務ヲ行フモノニ書類ノ保管ヨリ觀察スルニ後任者ハ確定の名義ニ於テ其職務ヲ行フモノナルカ故ニ在職中ハ永久的ニ保管ノ責任ヲ有シ失格ノ事件發生スルハ更ニ上乗説明セタル如キ手續ニ依リ他ニ於テ證入ニ之ヲ引渡ササル可カラザルナリ然レトモ兼任者ニ至リテハ事情全ク之ト異リ兼任者ハ一時的ニ其職務ヲ行フモノニ過キサルカ故ニ其保管亦一時的ナラザル可カラズ從テ委任者ニ對スル後任者ハ任命セザルカ如キ場合ニ於テハ兼任者トシテ保管シタル書類ヲ後任

公證人ニ引渡シタル所カニ而シテ兼任ノ地位ニ於テ過キ者ハ速カニ本任者ニ復シテ便利ナラシメ以テ引渡シ命ヲ受ケタル日ヨリ三日以内ニ自己カ引繼ヲ受ケタル當時ノ目録ニ依リ引渡ヲ爲シ可キモノト爲シ之ハ兼任者ハ前任者ニ書手始メ事務ニ付テ其以後ノ手續於テ兼任者トシテ自己カ依頼ヲ受ケタル事務ニ付テ全ク本任者ノ地位ニ於テ其始末書ヲ作成ノ部分ニ付テハ引繼ヲ要セザレバナリ引渡ヲ爲シタルトキハ其始末書ヲ作成シ之ニ受繼人ト共ニ署名捺印ス可ク受繼人ハ始末書作成ノ日ヨリ一月以内ニ其寫一通ヲ作リ之ヲ管轄地方裁判所ニ提出シ以テ其監督ニ資スルモノトス

(6) 本任者停職ノ場合ニ於テハ一先ニ其職務ニ代リテ其職務ニ資スルモノト爲シ之ニ過キス從テ期間經過後ハ本任者ハ直チニ其活動ヲ再始スルハ豫期シ得可キコトニ屬スルヲ以テ屢ニ提要目錄ヲ作成シ書類ヲ授受セシムルカ如キハ書類ノ滅失ヲ防カントシテ却テ其機會ヲ多カラシムルカ故ニ此場合ニ於テハ

全ク書類ノ授受ヲ爲サス又提要目錄モ作成セシメテ公正書類ノ保存ハ停職者依然之ヲ擔當ス可キモノトス

(ハ) 役場ヲ廢止セタル後任者又ハ兼任者ノ任命ヲキタル後ハ公證人失格スレバ後任者ヲ命ス可ク後任者ノ任命ヲキタル兼任者ヲ命ス然レトモ兼任者モ亦未タ任命セラレタルトキハ前任者ノ取扱ヒタル書類ハ其保管ノ責任アル者ヲ失ヒ一日モ之ヲ忽諾ニ付ス可カラズ於是管轄地方裁判所ハ其書類保管ヲ爲メニ必要ナル處分ヲ施ササル可カラズ必要ナル處分トハ封印ヲ執行即是ナリ

其書類ハ公正書類ノ紛失又ハ其濫用ヲ豫防スル目的ニ出テ故ニ公證人失格スル後任者ノ任命アルトキハ之ヲ爲ササルモノトス何トナレハ後任者ハ確定ノ名義ニ於テ前任者ノ事務ヲ繼承シ從テ其書類ヲ引繼ヲ受ケルモノナレバ其保管ハ監督裁判所ヲシテ何等ノ顧慮スル所ナカラムレハナリ然レトモ總テノ場合ニ於テ裁判所カ必要ト認メタルトキハ封印ヲ爲スコトヲ

得可シ例之後任者ノ任命ヲシテ事實上述隔ノ地ニ在リテ就職シ至ル迄多少ノ時日ヲ要スルモノト認ムルトキハ則チ第五十八條ノ所謂必要ト認ムル場合ナラバ以テ裁判所ニ適宜ニ封印印ヲ執行スルヲ得可シ嚴格ナル理論ニ依ルハ公證人規則ニ封印印後ニ命セラルル後任者ニ對シテハ封印解除ノ手續ヲ規定スルヲ以テ任命後ニ於テ封印ノ執行アルカ如キハ法律ヲ豫見セサルモノノ如シト雖モ法律ハ當事者ノ立會ヲ以テ提目録ヲ調製シ命セシメ以テ責任移轉ノ標準トシ前任者ハ其作成ノ日迄公證人ニ非サルモ保管ノ責任ヲ負ヒ授受ニ因リ一切ノ責任ヲ免カレテモナレトモ若シ前任者ニシテ後任者ノ任命後書類ヲ授受前ニ死亡シタルトキハ任命ハ責任移轉ノ效力ヲ有セス且ツ其場合ニ於テ兼任者ノ任命ハアリ得可カラヌ又書類ヲ放置スルモ公益上危險ナルヲ以テ裁判所ハ勢モ封印執行ヲ途ニ出ララル可カラヌ從テ後任者任命後ニ封印ノ執行アリ得可ク之レ一面ニ於テハ第五十八條ノ必要ナル場合ニ該當スルモノニシテ其後ハ授受ノ手續ハ明文ナキニ係ハラス第五十九條ノ規定ヲ準用ス可キモノト信ス

申立ヲ爲シタル場合ニ於テハ國庫ヨリ之ヲ受クヘキモノトス非訟事件手續法第二六條又裁判所カ特別ノ事情アルトキ非訟事件手續法ノ規定ニ照リ費用ヲ負擔スヘキ者ニ非ル關係入ニ費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔ヲ命セラルトキハ其者ヨリ之ヲ受クヘキモノトス(非訟事件手續法第二八條受ニ注意スヘキハ戶籍法違反事件ニヨリ過料ニ處セラルヘキ裁判ヲ受ケタル者ニ對シテ爲シタル送達ニ付ラモ亦戶籍法第二百十四條ノ規定ニ從ヒ違反者ヨリ送達ノ手数料及ヒ旅費ヲ受クヘキナリ但シ實際ノ便宜上多ク此場合執達吏ハ國庫ヨリ其手数料ヲ立替支給セラレ居ルカ如シ

第四款 裁判外ノ非訟事件ニ關スル送達

執達吏ハ裁判外ノ非訟事件ニ付テハ關係人ノ委任ニヨリ送達ヲナスヘキナリ例ヘハ民法第二百六十八條第二百六十九條ノ規定ニ照リ地上權者ノ豫告又ハ通知及ヒ同法第四百九十三條第四百九十五條第三項ノ催告又ハ同法第六百十七條ノ規定ニ照リ貸貸借解除申入ノ告知等ニ關シテ送達又ハ商法第六

三十條、第五百五十二條、第五百五十三條第二項ニ規定スル通知又ハ催告等ハ當事者ノ委任ニヨリ執行吏之ヲ爲スヘキナリ此場合ニ於テ執行吏ハ其送達ニ關スル手続料及ヒ旅費ヲ受任者本人ヨリ受クヘキコトハ勿論ニシテ別ニ説明ノ要ナシ

第二章 民事事件ニ付テノ強制執行

第一款 總説

第一項 通則

執行吏ハ民事事件ニ付テノ強制執行ヲ實施スヘキモノナリ但シ法律上執行行爲ヲ裁判所ニ任セタルモノハ此限ニアラス而シテ我民事訴訟法上裁判所ニ任セタル強制執行ハ(一)金錢債權ニ付テノ強制執行中不動産及船舶ニ對スル強制執行並ニ債權及ヒ他ノ財產權ニ對スル強制執行手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券並ニ記名證券、無記名證券等ノ有價證券ヲ除外ス(二)行爲ヲ爲サシムル爲メノ強制執行ノ二種ナリ即チ此二種以外ノ強制執行ノ實施ハ悉ク執行吏之ヲ爲スヘキナリ

強制執行ハ債務名義ノ執行力アル正本ニ基キテノミ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス而シ此正本ハ必ス前記ノ正本ハ被告某若クハ原告某ニ對シ強制執行ヲ施行スルタメ原告某若クハ被告某ニ之ヲ付與ストノ式ヲ以テ執行文ヲ作り且テ裁判所書記署名捺印シ且テ裁判所ノ印ヲ押シアルヲ要ス最モ執行力アル正本ハ裁判所書記之ヲ付與スルヲ通例トスレトモ公證人ノ作りタル證書ニ付テハ公證人之ヲ付與スルコトヲ得

強制執行ノ基本ヲナス債務名義ハ終局判決又ハ終局判決ト見做スヘキ中間判決ニ依ルヲ原則トスト雖モ債務名義ハ之ニ依テ盡クルモノニアラス而シテ判決以外ノ債務名義中ニハ裁判ニヨルモノト又全ク裁判ニヨラザルモノトノ區別アリ今判決以外ノ債務名義ヲ左ニ列舉セン

(イ) 抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立タルコトヲ得ル裁判ノ例ハハ裁判所書記法律上代理人、辯護士其他ノ代理人及ヒ執行吏ノ過失又ハ懈怠ニ因リ生シタル費用ノ辨濟ヲ負擔セシムル決定又ハ訴訟費用額確定ノ決定並ニ呼出ニ應シテ出頭セス又ハ證言ヲ拒ミタル證人、鑑定人ニ對シ費用ノ賠償ヲ宣言シタル決定ノ類

(ハ) 裁判上ノ和解中即チ民事訴訟法第五百五十九條第三號、第四號ノ規定スル所ニシテ同法第二百二十一條、第三百八十一條ニ規定スル場合ナリ。

(ホ) 破産手続ニヨリ債權調査會ニ於テ確定シタル請求之レ舊商法第千四十

九條ノ當然ノ結果トシテ出テ來ルモノニシテ此場合ハ強制執行ノ基本タル債務名義ハ同法第千二十五條ニ規定スル債權證書ニヨルヘキナリトテ、五本ハ軌速吏ハ以上説明スル如キ債務名義ヲ執行力アル正本ニ基キテ入リ強制執行ヲナシタルモノナリト雖、五本ハ露雪某等ハ別當某等漢ノ邊境邊津ニ就テ軌速吏ハ總テの場合ニ於テ執行力アル正本ハ條件到來以前ニ付與セザル

七

シテ否テ調査セハハ成ニテ而シテ預備要ヤハ一室ノ書置イフ式ノ成
(一)強制執行ノ基準準ナル付キ債務名義ニ一室ノ書置イフ式ノ成
(二)判決ノ趣旨ニ由リ事實ヲ到來スルニ非ル強制執行ヲ得タル場
合官合及債權者若シテ債務者カ承認シテシテ場合ニ於テハ執行及證明
(三)書ニヨリ執行文ヲ付與シタル下キハ其證書ヲ原本ニヤスヘイテ其土
然レトモ債權者カ保證ヲ立ルニ非レハ執行ヲナスコトヲ得ナル場合ニ於
テハ執行文ノ送達ヲ要セズ然レモ開示イフ式ノ成
(四)執行文ノ送達ヲ要セズ然レモ開示イフ式ノ成
(五)但シ執達吏ハ此等ノ書類ノ送達未タアラサルトキハ其送達ヲ爲シタル同時
ニ強制執行ヲ開始スルコトヲ得ヘキナリニ非レハ其送達ヲ爲シタル同時
執達吏ハ委任ヲ爲シタル債權者及ヒ執行ヲ受タヘキ債務者ノ氏名カ執行文中
若シテ債務名義ニ表示セラレアルトキハ限リ強制執行ヲ開始スルコトヲ得
委任者ニ於テ承認ニ因リ指名シタル債權者ノ位置ヲ自ラ占ムルコト及ヒ第
三者ヲシテ指名シタル債務者ノ位置ニ當ラシム可キコトヲ主張スルコトハ執

達吏ハ更ニ執行文ヲ求メシムル爲メ委任者ヲ受訴裁判所ニ移ズベシ然レモ
債務者死亡ノ際既ニ之ニ對シテ開始シタル強制執行ハ其遺産ニ對シテ之ヲ繼續
スルモノトス
外國裁判所ノ判決ニ付テハ執達吏ハ本邦ノ裁判所ノ執行判決及ヒ裁判所書記
ヨリ付與シタル執行文ニ依ルトキハ限リ執行ヲナスコトヲ得
執達吏ハ強制執行ノ實施ト同時ニ強制執行ノ費用ヲ債務者ノ有體動產ヨリ取
立ツルモノトス此費用ニハ殊ニ執達吏ノ手数料立替金執行力アル正本付與ノ
費用及ヒ強制執行ニ付キ債權者ノ受取ルヘキ裁判外ノ必要ナル費用ヲモ包含
スルモノトス
執達吏ハ各執行行為ニ付キ調書ヲ作ラサルニカラス但シ此調書ニハ民事訴訟
法第五百四十條ニ列記セサル諸件ヲ具備スルコトヲ要ス即チ
(イ)調書ヲ作リタル場所年月日
(ロ)執行行為ノ目的物及ヒ其重要ナル事情ノ略記
(ハ)執行ニ與カタル各人ノ表示

(一) 右各人ノ署名捺印

各人ノ表示

(二) 調書ヲ其各人ニ讀聞セ又ハ開覽セシム其承諾ノ後署名捺印ヲ爲シタルコ

トノ開示

(三) 執達吏ノ署名捺印

(四) 要件ヲ具備スルコト能ハサルトキハ其理由ヲ記載セサルヘカヲ不能

又此調書ニハ執行ニ關スル總テノ命令ヲ記載シ債權者ヲ満足セシムルコト能

ハサルトキハ總テ適法ナル方法ニヨリ債權者ヲ満足セシムヘキコトヲ試モテ

ルモ其目的ヲ達セザリシコトヲ調書ニ於テ明確ニスルコトヲ要ス

調書ハ執行行為ト同時ニ之ヲ作リ且テ成ルヘク其行為ヲナシタル地ニ於テ之

ヲ作ルヘシ

第二項 執達吏ト債權者及ヒ債務者、第三者ト

關係

執達吏カ刑事裁判ノ執行機關トシテ罰金若クハ科料ノ徵收ヲナスカ如キ場合

ニ於テハ執達吏ト被執行者トノ關係ハ全法然法上ノ關係ナレハ特ニ此關係ニ付テ説明スルノ要ナシ余輩カ第一編第三章ニ於テ簡單ニ執達吏ノ其相手方ニ對スル關係ヲ説明シタルハ執達吏カ民事裁判ノ執行ヲ爲スニ付テ執達吏ト其委任者ナル債權者トノ間ニ於ケル權利關係ノ如何ナルモノナルヤニ付テ云ヘルモノナリ而シテ余輩ハ此間ノ關係ヲ以テ代理關係ナリト説明スル學說ニ左祖セリ而モ此場合ニ於テモ執達吏ト債務者及ヒ第三者トノ間ノ關係カ公法上ノ關係ニシテ一般官吏ト人民トノ間ニ於ケル關係ニ異ル事ナキハ勿論ノ事ナレハ茲ニ之ヲ説明スルノ要ナシ今次ニ我現行法上執達吏ト債權者執達吏ト債務者及ヒ第三者トノ關係ヲ具體的ニ説明セントス

(一) 執達吏ト債權者トノ間ノ關係

此兩者ノ關係ハ全ク私法上ノ代理關係ナルコトハ第一編第三章ニ於テ説明シタル所ナリ我民事訴訟法ハ執達吏ノ權利ハ債權者ノ委任ニ基キテ生スルモノナルコトヲ認メタリ民事訴訟法第五三條第二項第三項從テ執達吏ハ債權者其他ノ關係人ニ損害ヲ生セシメタルトキハ之レカ責ニ任セサルヘカヲサルコ

ト勿論ナリ(同法第五三二條)而シテ其代理關係ハ委任狀ヲ付與シ及ヒ執行力アル正本ヲ交付スルヲ以テ初マル(同法第五三三條)但シ其委任ヲ爲スニ當リテハ債權者自身ニ之ヲ爲スモ訴訟代理人カ爲スモ又ハ口頭ニテナスモ書面ニテナスモ或ハ直接タルト書記ノ媒介ニ依リテ之ヲナスモ其效力ハ同一ナリ然レトモ債權者自身其委任ヲナスヲ通例トス但シ書記ノ媒介ニヨリテ之ヲナシタル時ト雖モ執達吏ハ各執行行為殊ニ取立ラタル金錢ノ引渡ニ關シテハ債權者ヨリ直接ニ委任ヲ受ケタルモノト看做サル(同法第五三四條)又ハ訴訟代理人ヨリ執達吏カ強制執行ノ委任ヲ受ケタル場合ニ於テハ執達吏ハ直チニ其取立ラタル金錢其他ノ物品ヲ訴訟代理人ニ引渡スヘキニ非ス唯債權者カ特ニ此事ヲ明示シタルカ又ハ訴訟代理書而ニ其旨明記シタル場合ニ限リ之ヲ引渡シ得ヘキノミ但シ相手方ヨリ辨済スヘキ訴訟費用ハ訴訟代理人其訴訟委任中ニ於テ之ヲ領收スル權アルヲ以テ執達吏ハ直接ニ之ヲ交付スルヲ得ルモノトス(同法第五三五條)又ハ債權者第三條ニ於テ規定スル執達吏ハ特別ノ委任執行力アル正本ノ交付ニヨリ強制執行ノ委任ヲ受ケタル執達吏ハ特別ノ委任

ヲ受ケサルモ債務者ヨリ支拂其他ノ給付ヲ受ケ其受取リタルモノニ對シ有效ニ受取證ヲ作リテ交付スルノ權ヲ有ス且ツ債務者ニ於テ其義務ヲ完全ニ盡シタルトキハ執行力アル正本ヲ債務者ニ交付スルコトヲ得ルナリ(同法第五三六條)又債權者強制執行ニ立會フコトヲ求ムルトキハ執達吏ハ其債權者ノ立會アルニ非レハ強制執行ヲナスコトヲ得ス(同法第五三七條)又債權者ニ對シテハ強制執行ノ委任ニ因リテ執達吏ニ與ヘタル權利ヲ制限シ或ハ中途ニ於テ全ク之ヲ解除スル場合アルヘシ此場合ニ於テモ執達吏ハ執行力アル正本ニ基キ強制執行ヲナシ得ヘキヲ以テ其制限及ヒ解除ハ債權者ト執達吏トノ間ニ止リ第三條ニ對シテ債權者ハ其委任ノ制限又ハ解除ヲ主張スルコトヲ得ス然レトモ債權者ト執達吏トノ間ニ於テハ執達吏ハ債權者ノ申出ニヨリ何時タリトモ其強制執行ヲ全ク停止シ又ハ之ヲ制限スヘキモノトス此レ畢竟執達吏ト債權者トノ關係ヲ私法上ノ代理關係ト見タル結果ナリ上述ノ如ク執達吏カ強制執行ヲ一時停止シタル場合殊ニ延期ノ場合ニ於テハ債權者ヨリ一定ノ期日ヲ指定セザリシトキハ執行再始ニ付キ債權者ノ再度ノ申出ヲ俟ツヘキモノトス但シ

一定ノ期日ヲ指定シタル場合ニ於テハ其期日到来後直チニ強制執行ヲ繼續ス
ヘキモノトス。但シ、債權者ノ關係代代理關係ニシテ執達吏ト債務者又ハ第三者ノ關係カ
全ク公法上ノ關係ナルノ結果トシテ下ノ如キ結論ヲ引起スニ至ルヘシ即チ執
達吏ハ債務者又ハ第三者ノ異議アルモ其執行ヲ停止スヘカラサル事ナリ唯タ
債權者ノ申出ニ依ラスシテ其執行ヲ停止又ハ制限スヘキ場合ハ民事訴訟法第
五百五十條ノ場合ニ起ルヘキノミ蓋シ同條ノ場合ハ法律力之ヲ停止又ハ制限
スルノ必要アリトシテ執達吏ヲシテ其職務施行ヲ制限シタル場合ニシテ全ク
公法上ノ關係ニ於ケル停止制限ノ場合タルナリ此ノ如クニシテ執達吏カ執行
ノ停止又ハ制限ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク之ヲ債權者ニ通知セラルヘカラス
又、(二)執達吏ト債務者及ヒ第三者トノ關係ハ全然公法的關係ナリ換言スレハ權力の
執達吏ト債務者及ヒ第三者トノ關係ハ全然公法的關係ナリ換言スレハ權力の
關係ナリ而シテ執達吏ハ執行力アル正本ヲ有スルノ一事ニヨリテ特定ノ人ニ
對シテ其權力ヲ行使スルヲ得ルニ至ル故ニ執達吏カ執行力アル正本ヲ有スル

雜 駁

○商標權確證ノ請求 商標法ハ其第二十條ノ規定ニ由リ特許法第二十九條
ヲ準用セリ此規定ノ結果トシテ商標權確證ノ請求ヲ提起スルコトヲ得ルカ例
ヘハ甲カ乙ノ專用ニ屬セル商標ニ類似ノ商標ヲ使用セルニ當リ乙ガ甲ニ對シ
惡感情ヲ懷ケル如キ場合ニ於テ甲ハ自己ノ商標カ乙ノ商標權ヲ侵害スルモノ
ニ非サルコトヲ公然爭フコトヲ得ヘキヤ否ヤ特許局ハ此問題ヲ肯定シ審決ヲ
與ヘタルニ大審院ハ之ヲ不當トシテ曰ク特許法第二十九條ヲ按スルニ同條ニ
ハ二箇以上ノ特許發明互ニ撞著シ又ハ特許發明ト特許ヲ受ケタル物品若クハ
方法ト撞著スルコトヲ發見シタルトキハ利害關係人ハ權利ヲ確證スル爲メ特許
局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得ト規定セラレ此法條ハ商標法第二十條ノ規定ニ
依リ商標ニ關シタモ之ヲ準用シ得ヘキモノトモ其之ヲ準用セシムハ二
箇ノ商標互ニ撞著スル場合ナラサルヘカラス然ルニ被上告人ハ原審ニ於テ主
張シタル所ニ當事者所爭ノ商標ハ互ニ撞著セス云アリ理由ハシタルモノ

ナルコトハ記錄ニ載シテ明カナリ故ニ被上告人ノ請求ハ商標法第二十條及ヒ特許法第二十九條ノ規定ニ該當セラルヲ以テ之ヲ許スコトヲ得ナルモノトス況ンヤ原審決ノ認ムル事實ニ依ルモ右二箇ノ商標互ニ撞著セラルモノナルニ於テオヤ然ラハ被上告人ノ請求ハ之ヲ不適法トシテ却下セラルヲ得タル筋合ナルニ原審決カ事茲ニ出テスシテ本案ニ進ミ審判ヲ爲シタルハ上告論旨ノ如ク法則ヲ不當ニ適用シタル違法ノ審決タルヲ免カレヌト(大審院明治三十七年八月三十七日第六二二號民事部判決)

○複製ノ意義 著作權法第一條第一項ニ依レハ同條規定ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作者ハ其著作物ヲ複製スルノ權利ヲ專有スルモノトス所謂複製トハ如何ナル意義ヲ有スルカニ付テハ諸君ハ既ニ著作權法ノ講義ニ依リ十分了知セラルル所ナルヘキモ今我大審院ノ解釋セル所ヲ見ルニ曰ク著作權法第一條ノ所謂複製トハ原著物ト全然同一ノモノヲ再製スル行爲ノミヲ謂フニ非スシテ原著物ノ枝葉ニ於テ多少ノ修正増減ヲ加フルモ其趣旨ニ於テ彼此同一ナル程度ノモノヲ作製スルモ亦複製ナリトスト(大審院明治三十七年四月九日第三號著作權法違反事件明治三十七年四月二十一日)

日十七年四月二十一日
第七年四月二十一日

○轉載ヲ禁スル旨ノ記載方及ヒ其效力 著作權法第二十條ニ曰ク新聞紙及定期刊行物ニ掲載シタル記事ニ關シテハ小説ヲ除外著作權者カ特ニ轉載ヲ禁スル旨ヲ明記セサルトキハ其ノ出所ヲ明示シテ轉載スルコトヲ得ト本條ニ依リ轉載ヲ禁スルニハ如何ナル部分ニ如何ナル形式ヲ以テ記載スルコトヲ要スルカ例ヘハ各論說其他ノ記事各箇ニ付キ轉載ヲ禁スル旨ヲ記載スルコトヲ要スルカ大審院ハ判決シテ曰ク轉載ヲ禁スル旨ヲ記載シタル文字ノ大小其位置ノ如何ハ其禁轉載ノ效力ニ消長アルモノニアラス又定期刊行物ノ卷頭又ハ卷尾ニ禁轉載ノ記載アルトキハ其刊行物中法律上禁轉載ノ效力アル部分ニ付テ記載シタルモノト解スヘキハ當然ナルヲ以テ其部分毎ニ之レヲ特載スルノ要ナシト又其轉載ヲ禁シタル定期刊行物ノ一部ヲ轉載シタルトキハ如何ナル制裁アルカ即チ之ヲ著作權法第三十七條ニ問フヘキカ五十圓以上五百圓以下ノ罰金刑ヲ同法第三十九條十圓以上百圓以下ノ罰金刑ヲ以テ論スヘキカニ付キ大審院ハ原院カ第三十七條ヲ適用シタルヲ是認シ上告人カ第三十九條ニ

間フヘキモノナリトノ論旨ヲ排斥シテ曰ク著作權法第三十九條ハ第二十條ノ規定ニ違反シ出所ヲ明示セスシテ複製シタル者トアリテ定期刊行物中特ニ轉載ヲ禁スル旨ノ明記ナク他人ノ複製ヲ許シタルモノニ關シ出所ヲ明示セスシテ複製シタル者ヲ處罰スル法條ニシテ云云ト同

○第二十回卒業證書授與式 本校ニ於テハ去月十三日午後二時ヨリ第二十回卒業證書授與式ヲ舉行シ梅總理ヨリ卒業生百四名ニ一一卒業證書ヲ授與シ且二年級及第者總代一年級及第者總代其他實業科及第者大學豫科及第者等へ修業證書ヲ授與シ次テ學事報告及ヒ卒業生ニ對スル告辭ヲ述ヘラレ講師總代寺尾博士來賓波多野司法大臣校友總代高木益太郎氏ノ祝辭卒業生總代ノ答辭アリテ芽出度式ヲ閉テダリ

●學生募集

本大學新學年授業ハ來九月十二日ヨリ開始ス入學志願者ハ速カニ申込ムヘシ學則入用ノ向ハ貳錢郵券ヲ送付スヘシ

●大學部

來九月新學年ヨリ新ニ講筵ヲ開ク中學校卒業者又ハ之ト同資格者ニシテ入學試驗ニ及第シタル者又ハ他ノ同等學校豫科卒業者ヲ入學セシム

●專門部

法律科 實業科 入學試驗來九月二日、十日、十月三日午前八時ヨリ施行ス

第貳年級編入試驗 來九月一日(午前七時)ヨリ施行ス

●高等研究科

來十月ヨリ授業ヲ開始ス

●大學豫科

第貳期編入試驗 來九月一日、十五日午前八時ヨリ施行ス

●聽講生

來九月以後隨時入學ヲ許ス

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

七月

司法省指定
文部省認定

私立

法政大學

